

②播磨・淡路地域 事前アンケート 自由記述全データ

Q1 「つながりあう社会」の実現のために、あなたが今回フォーラムで討論する必要があると思われる内容
<p>連携・協働</p> <p>新規の会員が少なく、会員の高齢化が進んで会の活力が低下している。 取り組むことが望ましい活動は次々に現れるが、継続して実行していくためのマンパワーが不足している。 21世紀に入り、社会的包摂の考えかたが日本に導入され、個人一人ひとりと社会の関係が変化しました。NPO法20周年ということもあり、私たちが社会を考える時、しばしば政府や市場、ボランティアのようにセクターや集団を踏まえてその役割や関係を考察しています。この点を踏まえ、NPOや市民団体と個人（ステークホルダーやそれ以外を含め）との関係についても検討が必要だと思います。</p> <p>社会とのかかわり方</p> <p>セクターを越えた繋がり。というワードが良く聞かれるようになったが、そのためには、NPOセクターも企業セクターも、もっともっと意識改革が必要と思う。</p> <p>特定非営利活動の分野で、まちづくりの推進と子どもの健全育成を図る活動を目的として活動しているため、「つながりあう社会」の実現と問われても、答えようがありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「つながりあう社会」はNPO法ができた当初から言われている。しかしながら、20年経った今でも言われているが、今の社会でも言われているのはなぜなのか。 ・社会の中でNPOの認知、存在感が薄く、一般の方からはわかりづらい。NPO側が特別な認識を持ちすぎているのではないのか。 ・依存型の社会になっているように思う。（〇〇のせいでこうなった、他人事など） ・公共施設の指定管理事業を行なっていることに加え、この施設を活用して市民の自律やエンパワメントをサポートしている。 ・他の方の取組みの共有 ・非営利セクターの実効性 <p>何度かNPO法人の集会に出席しましたが、分野の幅が広く自分達のやっていることを紹介するだけにとどまっていたように感じました。たぶん分野別の集会も開催されていると思いますが、今までは全国YMCAつながりで動いていて、あまり外に目を向けることが少なかったと反省しています。青少年分野のなどの集まりがあればと思っています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. NPO団体からの事業提案に対して、行政の人・モノ・金の支援体制と、支援するための要件 2. NPO・民生活団体の連携の方法 <ol style="list-style-type: none"> 1. 当法人には、逆に早急につながりを断たねばならん親子や夫婦の相談が多く来ます。「つながりあう社会」とは、抽象的で回答に困ります。 2. 困っている課題はお金の無い人と精神疾患の人の支援です。 <ul style="list-style-type: none"> ・地縁団体と志縁団体との連携について ・行政からの委託事業や指定管理事業について、実績を持たない団体がどう実績を重ねていくべきか <p>どの団体もスタッフが集まらず困っているのではないのか、活動者の大半が60代後半から70代の方であるため、将来的に団体が継続できるのか不安に思っている。</p> <p>自分たちの団体が得意、興味のあることを市民の方に知ってもらいたく、また、想いを共有できればと思い活動を地道に続けてきた。その活動の中で、地域の色んなつながりができたと感じている。また、それにより、新しいことを知り、新しい世界を開くことができた。発達障がいについて理解を深める活動し、この10年で意識はとて変わったように感じている。「つながりあう社会」としてはこの10年でどう変わったのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体運営における人材確保の方法 ・団体運営における人件費、事業費の調達方法 <p>団体設立から年数が経ち、団体に関わる人が高齢になってきた。次世代の人を巻き込むためには、どのような仕組みが必要なのか。現在の社会では、70歳まで現役という方が多いので、これからさらに人（スタッフ）集めが難しくなってくるのではないのか。地域の様々な場所、もの、行事等で地域住民はつながっている。このつながりをさらに深め、より良いつながりあう社会になるためにはどうしたらよいかを議論したい。</p> <p>ラベンダーパーク多可では、ラベンダーシーズンの開始時期にオープンイベント、多く植栽している品種が咲いたときにフェスタ、秋の紅葉シーズンに感謝祭などのイベントを実施している。この時には、地元地域の住民の参画を得ている。また、「喫茶ラベンダー」や食事処「ごはん亭」の運営も地元住民が担っている。イベント実施時以外の住民の参画、「ごはん亭」など運営スタッフの確保が課題となっている。</p> <p>人口減少、少子高齢化が進むこの国の、特に地方において、経済の疲弊、人手不足が叫ばれる中、NPOとして何が出来るのかとのテーマを取り上げて頂きたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動資金の確保 ・後継者や人材を含めた団体の継続 ・地域型コミュニティと目的型コミュニティとの連携 <p>多世代、多様な人々が、直接の交流を持てること、また、それを通じた集い場づくり</p> <p>各団体がどこでどんな思いでどのような活動をしているのか、お互いを知り合うことが最も大切なことと思います。</p> <p>高齢者、小地域活動を活性化するための、地域などの情報が欲しいときに行政など、もっと身近に問合せのできる機関が欲しい。</p> <p>「つながりあう社会」の実現が大目的にあっても、「繋がること」自体を「目的」とする取り組みや議論は魅力に乏しく継続性に欠けると考えます。地域の祭りはそれ自体が楽しく魅力的であるからこそ、結果として人の繋がりや継続性が自然に生まれているのだと考えます。「つながりあう社会」の実現という大目的のために、魅力的で楽しい取り組みを行うことを「目的」とするべきだと考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいを持つ子どもの乳幼児、学齢、成人のライフステージをつなぎ、亡きあとも生涯において、特性に合わせた必要な支援が途切れることのないように一貫した支援体制が作れる社会 ・子て中の保護者とその子どもが必要と感じ多くニーズがある環境作り ・潜在保育士が個々に合ったライフワークを取り入れながら保育環境に復帰できる環境作り（チームジョブ） <p>高齢者介護も障害福祉もそれぞれ、サービスという観点から、サービスの対象者である利用者対象者ではない家族を切り分けることを前提として、制度は組み立てられ発達してきたと考えることができると考えます。例えばですが、利用者と家族は果たして、制度の外で再会するのか？それとも制度の中で再会させるのか？（家族を地域と置き換えることも可）</p> <p>NPO法人が、民間企業として自立永続するためには、どういった体制が今後必要か？を一般企業の視点や地縁団体から聞いたりできればいいのではないかと思います。</p> <p>NPOの必要性、中間支援の必要性について行政がどこまで関わればよいのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢や障がいの有無に関わらず、自由につどうことができ、主体化され、エンパワメントが促されるような居場所づくり ・分野を超えたネットワークと有機的なつながりづくり

Q2. あなたの団体が「つながりあう社会」の実現のために最も力を入れていることをお教えてください。

<ul style="list-style-type: none"> ・個別の福祉ニーズの解決をとおして、住民と共に福祉社会を構築する ・地域の福祉力を高め、生涯の幸せづくりを約束する福祉コミュニティづくり
<p>環境教育と自然体験学習の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会連携オフィスを設置し、自治体等地域の団体との間で協定に基づき、協働で活動をしています。 ・学生が社会との関係を理解し、地域社会をリードする存在として成長を促すため市民活動等にインターンシップなどで学生が活躍をしています。 ・被災地や社会福祉法人などで学生がボランティア活動を行っています。 ・近代的シティズンシップを基盤とするエクステンション・カレッジを設置し生涯学習を推進しています。
<p>地域とのかかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業・行政・NPOのつなぎ役になること。 ・企業間取引の感覚を取り入れること。 ・地域の子ども・その保護者とNPO法人みなみ会とのつながりを、子育てや教育支援などの事業を通して深めている。 ・年4回定期的に発行している「みなみ会だより」を通して、(1)地域社会のよさを発見するしたり、(2)地域にゆかりのある人物紹介することで、郷土を深く知る機会を提供している。 ・子ども未来ネットin北播磨では、北播磨地域で子育て支援を広げ、様々な団体や個人とつながるために「つながりシート」というものを利用している。 ・子育て支援の仲間を増やし、輪を広げることに力を入れている。 ・イベント等では、つながりシートをもとに多くの団体・個人と協力している。 ・外国人の方と日本人市民が交流して互いの理解を深める機会を設けること ・日本語教室を開催し、日本語学習だけでなく外国人と顔の見える関係性を築き、地域で孤立しないよう居場所づくりをしている ・学校や地域の人権学習等に、外国人を紹介して派遣なども行っている
<p>つながり合うことのできるために必要な場をどのようにするか？コミュニケーションをどのように取るか？を常に意識し、市民の参画を促すことその場の雰囲気をつくることを通じて、自主的で自律した市民を一人でも多く増やすことに力点をしています。</p>
<p>青少年活動やコミュニティ作り関連のための連携。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもたちのモノ作りの興味を高める為に、あかりの街ひめじの活動開始（2001年）から継続して17年に亘り「子どもあかり工作教室」をエジソンが電球を発明した日とされる「あかりの日」（10月21日）前後に姫路科学館などで毎年開催している。 2. 照明関連企業との協働で街中の照明による賑わいの創造（ピンクリボン週間のピオレディスプレイ、道路のマッピング等）
<p>依頼案件を一つ一つ解決する事に取り組むだけです。が、その依頼案件を解決することによって、結果的に何らかのつながりが出来ているのかもしれない。</p>
<p>ネットワークの会議や共同体を大切に（地域別・活動分野別）</p> <p>団体に関わる人すべてに年齢制限は設けていない。まずは、人に集まってもらわないといけないので団体にしかできないこと、特色づくりに力を入れている。</p> <p>自分たちがアンテナを張って、伝えたいことを市民に伝えることに最も力を入れている。様々な業種の方、市民の方と一緒に学びたいと考えていつも活動している。そして、これからも活動が負担にならないよう続けていきたいと思っている。</p>
<p>行政の役割と権限、民間の役割と権限、その両者の中間的な立場でこそ解決可能な地域課題を民間の経営感覚を持ち解決していく活動</p> <p>市民に向けて花と緑の講習会などを開催し、多くの市民の参加を得ている。花と緑で人のつながり、地域のつながりをつくることに力を入れている。現時点で団体ができる活動はできていると感じている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちを対象にした活動の中で、故郷を思う郷土愛や地域の人のつながりを大切にしている。 ・安心して暮らせるまち、住み続けて良かったと思えるよう活動している。 ・活動に関しては、団体メンバーが努力をして、成果のある活動を行うことが大切である。目指すべきところは、成功よりも上を目指している。
<p>「市民力」と「地域力」の向上を目指し、当事者、住民・市民、地域のエンパワメントの支援であります。</p>
<p>NPO法人北播磨ラベンダーの設立時から、地元の轟集落・山口集落が主体となってラベンダーパーク多可の運営を行ってきた。当法人が中心になり、両集落の住民の交流を図ることが出来ている。仕事の関係もあり、イベント時以外にラベンダーパーク多可の運営に積極的にかかわる住民に限られてしまう現状がある。</p>
<p>地域での棚田保全活動、婚活活動</p> <p>子どもも、大人も、お年寄りも（障害の有無なども）超えて、コミュニティでの支え合いによって成り立つ仕組みづくり。そのためのパシヨ・モノ・ヒトを育みつなげること。</p> <p>居場所や交流の場づくりに力をいれています。立ち上げ支援の取り組みや活動グループ同士の交流の場づくりなどに取り組んでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人それぞれに性格が違うように、対応もマニュアル通りにはいかない。 ・臨機応変な対応ができる活動に努力している。
<p>多様な価値観を否定しないこと。当団体の価値観を他者に押し付けないこと。社会を構築する歴史や人材と直に触れ理解しようとする。その過程の中で現実の社会に当団体が理想とする環境を体現し少しずつ理解を募ること。人が心の中で大切にしているものに応える取り組みを行うこと。子供達の名前を呼ぶこと。楽しい取り組みを行うこと。</p> <p>ハンザキの保護は、その生息河川の環境の保全が必須であり、その地域の住民にハンザキの生態を認知してもらうこと。</p>
<p>潜在保育士が個々に合ったライフ・ワークを取り入れながら保育環境に復帰できる環境作り（チームジョブ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多数を対象とした啓発活動。（講演会の開催、おたよりの発送、HPの更新） ・障害者の就労支援（当事者の自己実現、経済基盤の確立のみならず、職場の従業員として直接縦に横につながるのを支援する） <p>中間支援活動を通じて各セクターの団体と交流して、弱い部分を補完し合い、地域の活性化に繋がるように活動している。</p>
<p>地域活動団体の集まりの場を設け、新たな協働のパートナーとのつながりを持つ機会を提供するセミナーを随時開催している。</p> <p>多様な人が出会い、気づき、学び合う場づくり及びその支援</p>

Q3-1 貴団体の活動について

今、取り組んでいること
<ul style="list-style-type: none"> ・住民主体による地域福祉活動の支援に努めます ・相談体制の機能強化を図り、個別の生活課題の解決に努めます ・行政、関係機関との連携を深め、さらなる協働を図ります ・質の高い在宅福祉サービスを提供します ・社会情勢の変革に対応し、安定した法人運営に努めます ・地域福祉活動の推進 ・つながり合える地域づくりの推進 ・相談体制、生活支援の強化 ・情報発信の充実
<ul style="list-style-type: none"> ・環境教育と自然体験学習の実施 ・増田ふるさと公園の維持管理と活用 ・三木市内の貴重種の保護
<p>本学の建学の精神である「和」に基づく高等教育を展開しています。学生ののびしろを伸ばし、高度な専門職を養成するため、PBL型教育や実践に基づく教育の充実により、人間力と専門力を高めています。また生涯に渡る人々の成長の支援と市民力の向上のため、エクステンション・カレッジ講座など生涯学習に積極的に取り組んでいます。</p>
<p>地域の課題を解決のための活動</p> <p>龍野RMOとして、あらゆる社会課題を適材適所に再配置し、モデル都市として共生社会を実現すること。</p> <p>また、播磨地域へ拡大・応用展開し、播磨RMOを組成する準備。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育てと教育支援事業で、学校と保護者間の橋渡しをしている。 ・学校や音楽ホールと連携して事業を実施して、地域住民の橋渡しをしている。 ・グラウンドゴルフ大会を、中学校区内の住民を対象に開いている。知らない同士の交流がある。 ・季刊紙を発行。地域の文化・自然・歴史をキーワードにして、郷土に愛着を感じてもらっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・北播磨地域におけるバリアフリーの子育て支援 ・障がい児(者)のための防災を学ぶ、セミナーを過去2年間開催してきた。今年(H30)は、その学んだことを、実践する場として「こころぽかぽか防災運動会」を開催し、防災の観点から子育て世代の防災意識を高めることができた。 ・障がいの有無にかかわらず、乳幼児から楽しむことができる「こころぽかぽか運動会」を開催している。 ・子どもから大人まで、国籍、言語、職業や滞在期間などの違う様々な国籍の人たちが参加している ・地域の課題を解決できるように活動している ・多文化共生をめざし、外国人にも日本人にも自国の文化と同じ様に他国の文化も尊重する意識を持ってもらえるように活動している ・公共施設の指定管理事業を行なっていることに加え、この施設を活用して市民の自律やエンパワメントをサポートしている。 ・自治組織の改革に深く関わり、中核都市における小規模多機能自治の実践を行なっている。
<p>青少年の野外活動と森の学童保育を現在行っています。YMCAブランディングに取り組み内部啓発をしています。</p> <p>市民を巻き込んだ活動の推進</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自立した生活が困難な人の支援 2. 入院時の手続き、身元引受人の就任 3. 施設入居における手続き、保証人、身元引受人等の就任 4. 一般的な生活相談 5. 福祉の分野に法的な考えや解決方法を広めていく事業 <p>活動そのものがビジネスモデルとして成立する。職員の雇用などの提供側の人材を安定させる。</p>
<p>三木市自由が丘で、北播磨総合医療センター行のバスの停留所となる場所(わくわくステーション)の指定管理を行っており、地域の方の居場所としての機能をもっている。</p> <p>こども食堂の運営も行っており、いわゆる食事の提供だけでなく、遊びの日なども設定し、子どもたちの居場所となるようにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達障がいについての勉強会を11年続けてきた。参加者は、業種の垣根を超え、様々な方に参加してもらっている。 ・LGBTQについての勉強会を、2018年初めに開催した。 ・誰もが楽しめる音楽会を年に1回開催している。発達障がいのあるピアニストや、ボランティア経験が豊富な地元の音楽家など。 ・絵本の読み聞かせを月1回開催し、親子の居場所としている。
<p>組織のきっかけは、商店街の振興であった。ただ、地域が衰退している中で、商店街だけが振興するはずがないとの視点から、広い視野での地域振興に取り組んでいる。商店主のみならず、地域住民や行政と連携し地域経済全体の振興を目指した活動を行っている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小野市で花と緑で美しいまちづくりをモットーに活動している。 ・花と緑の講習会や、小野市の公共施設周辺の花壇の整備やイベント時の会場ディスプレイなどの活動をしている。 ・まちを愛する人たちの心を豊かにする活動を行っており、地域の観光資源を発信することや子どもたちに街の郷土愛を育むため、教科書では学べない地域のことを伝えている。郷土愛は皆が持っていると思う。それをさらに深めるための活動を行っている。 ・NPO法人格により、地域を超えて(市外・県外)様々な個人・団体と知り合うことができ、活動の励みになった。また、地域外の方からも評価をしていただくことができた。
<p>「市民力」と「地域力」の向上を目指し、各地区の市民協議会とともに、住民の暮らし(生活)を豊かにするため、地域ニーズの掘り起しと分析、そして、課題解決に向けた住民の主体的なアクションを支援。</p> <p>NPO法人北播磨ラベンダー設立時の基本方針として、女性や高齢者の働く場の確保、地域住民の交流拠点、地域の活性化を目指してきた。</p> <p>現在では、ラベンダーの苗の育成などの第1次産業、ラベンダーオイルの抽出・製品化をめざす第2次産業、製品販売を行う第3次産業(これらを統合した第6次産業化)をめざし取り組みを進めている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい福祉サービス実施(就労B型・生活介護) ・工賃向上の取り組み ・利用者の一般就労の支援 ・創作活動等メニューの開拓及び開発
<p>棚田の保全活動、米作り、自然体験、農作業体験、納豆や味噌など加工品づくり体験、婚活、フェス、冒険のひろば</p> <p>【障害福祉サービス事業】相談支援、就労就職支援、地域活動支援、グループホーム、の運営【行政との協働事業】包括支援センターとの連携による、認知症カフェ運営、認知症初期集中支援チームでの訪問、見守り協定事業、の運営(特に若年性認知症を中心に)</p> <p>【市民ボランティア事業】こども食堂(コードモキッチン)の運営、H30.9現在で、3か所の小学校区単位で運営している</p>
<p>行政、社協、地域諸団体等との連携による「買い物支援」「食品ロス削減」「居場所づくり」「防災啓発」「高齢者等の見守り」の取り組みなど</p>
<p>竹田城に纏わる太刀の伝説を発掘し復元させ奉納する事業。意図的にレベルを下げた子供達のパレーボール教室。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハンザキの公開見学会を月2回ほど開催。 ・ハンザキの夜間観察会を年3回実施。 ・ハンザキを河川環境のシンボルとして、環境教育活動。

<ul style="list-style-type: none"> ・市からの委託事業（支援センター事業・預かり保育事業・託児事業） ・子育て環境に置いて、公共に向け協働型の提案事業 ・潜在保育士の社会復帰支援事業（チームジョブ） ・地域ニーズに応じた支援事業（支援が必要な子どもの学習支援及びその親の相談事業） ・多数を対象とした啓発活動。（講演会の開催、おたよりの発送、HPの更新） ・就労支援を通じて、一人の当事者が自己実現と、経済基盤の確立をすることで、必然的に周りの人たちに対しての啓発活動となる。 <p>地域活動団体の集まりの場を設け、新たな協働のパートナーとのつながりを持つ機会を提供するセミナーを随時開催している。</p> <p>地域福祉の推進に向け、地域住民の方々や各種関係機関と連携を図りながら、「誰もが共に健康で安全・安心して暮らせるまちづくり」を目指し、活動を継続的に実施。新たな取り組みとして、権利擁護デスクの開設やひきこもり等の家族会を開催し、より幅広い方々への支援を行っている。</p>
今後取り組みたいこと
<ul style="list-style-type: none"> ・地域での生活を基盤として多くのサービス及び事業主体が横につながり包括的な支援ができる環境づくり ・個別課題から地域課題を導き出し、地域住民と共に解決に向けて取り組める体制づくり ・住民による地域福祉活動に主眼をおきつつ、新たな視点から発展できるような連携や協働のあり方 ・現在の活動内容の質を落とさず継続していく ・市内の貴重種を地域住民と共に保全していく <p>東播磨地域唯一の高等教育機関であり、研究機関である本学が、地域の発展のために、例えばため池研究など地域資源を活かす研究や熟議による政策立案など研究・開発で地域を牽引をいたします。さらに、若年者の育成、定着に向けて教育機会の充実を図ります。地域に根差した大学として、高度人材を抱えての機能を発揮することを目指します。</p> <p>地域サロン</p> <p>地域RMO間の連携網づくり</p> <p>定款に謳っている目的に沿った地域ビジネスの展開。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て世代のニーズをしっかりととらえる感性を身につけ、時代に合った活動を行いたい。 ・さらに多くの団体と協力し、子育て支援の輪を広げていきたい。 ・新メンバーの獲得 ・居住地の日本人と外国人の交流（隣人レベルでの付き合いが出来るようにする） ・市民に多国籍、多文化の理解を深め、共生できる社会を創って行きたい ・外国籍の幼児や児童、生徒が入国した際に、日本語指導、日本文化の理解を学校だけに任せるのではなく、協会としてサポートをして行きたい <p>企業などの営利セクターとのネットワークを広げて行きたい。</p> <p>地域の中で何をしている団体なのかを明確にし、関係団体との連携を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各種団体との協調により市民の掘り起し 2. あかり・光に関わる企業や興味ある企業の参加 <ol style="list-style-type: none"> 1. 空き家対策 2. 精神障害者が落ち着いた生活を送る 3. 良い老後のモデル提示 <p>子ども、若者に関する包括的な支援。有償、無償に関わらずハタラク環境づくり</p> <p>他の地域からも集客できる場所をつくり、地域の活性化を行いたい。</p> <p>テーマは変わっても、自分たちの団体が今興味あること、取り組むべきことを市民に発信していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間企業の事業としての自立 ・採算の合う事業化 ・活動は満足しているが、団体スタッフの意識向上、技術向上に取り組むたいと考えている。 ・やらされている活動ではなく、自発的に考え行動できるようスタッフ育成を図りたい。 ・団体としての輪（地域・人）を広げていきたい。 ・活動を継続していきたい。 ・活動の対象者は、毎年変わるので新しい気持ちをもって活動に取り組むたい。 <p>地区毎に10年後を見据えた「支えあい行動計画」の作成に導くこと。</p> <p>認知症予防学会の会長である鳥取大学の浦上克哉教授によると「認知症予防は嗅覚改善から」と言われ、そのためにラベンダーの香りは有効であると提唱されている。多可町と協力して、認知症予防教室を当園内で進めてきたが、今後は多可町内へ出向く取り組みを進めて行きたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災における地域への協力依頼 ・設備整備資金確保の為、地元金融機関等へのアプローチ ・創作活動技術を持つボランティア(有償含む) <p>担い手・消費者の増加、民宿、子ども食堂、兵庫県での棚田サミット</p> <p>障害福祉サービス事業のダウンサイジング（地域の包摂力が充足していく中で、障害福祉サービス事業は必要最低量まで閉鎖している）</p> <p>新たな連携先の開拓と多様な分野における連携</p> <p>金銭面でやはり苦しいので、バザーや不用品の交換会などを計画していきたい</p> <p>世界に対し日本の魅力を発信する事業。</p> <p>現在の活動をより充実、発展させていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市からの委託事業（支援センター事業・預かり保育事業・託児事業） ・子育て環境に置いて、公共に向け協働型の提案事業 ・潜在保育士の社会復帰支援事業（チームジョブ） ・地域ニーズに応じた支援事業（支援が必要な子どもの学習支援及びその親の相談事業） ・継続的に取り組む。 <p>事業の多角化を行い、団体の安定を目指している。ユニバーサルな社会づくりの中のNPO法人の役割を明確にしていく。</p> <p>相談者が自立していけるようサポートしていきたい。</p> <p>多様化・複雑化する課題に対し、常にその状況を把握しながら様々な方々と連携を図り、活動を強化するとともに活動の幅を広げていきたい。</p>
障壁になっていること
<ul style="list-style-type: none"> ・色々な取り組みを進める団体と、連携・協働を進めるための信頼関係のあり方 ・地域住民主体の地域福祉活動で、連携・協働を進めるための信頼関係のあり方 ・会員の減少と高齢化が進み、マンパワーが不足してきている <p>資金と人材の不足です。私立大学に対しては国からの補助がありますが、これらは年々減少しています。一方、学生からの学費は最大限学生教育に振り向けます。教育を通し理念を実現することが理想ですが、制度上の制約もあり苦慮しています。人材については環境の変化に対応しうる教育人材を学内で積極的に育てる必要があります。</p> <p>人のつながり</p> <p>行政の視野狭窄。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・若い人材が不足している。 ・高い専門知識を有する人材不足。
<ul style="list-style-type: none"> ・メンバー間の共通認識が難しいと感じている。（メンバーによって温度差がある） ・メンバー間の関係づくり
<ul style="list-style-type: none"> ・予算（助成金がないとイベント等は開催できない状況である） ・市民の中に、外国人に対する偏見が感じ取られるため、隣人として温かく接することができていない面がある。 ・ニーズに答えられるだけの人員が足りていない ・行政との交流が浅いため、在住外国人の悩みなどが十分に伝わってきていない ・法人の運営形態をどうするかについての先駆的な事例がないこと。
<p>YMCAの中で活動が主となっていてなかなか他の団体とはつながりが少ない。</p>
<p>1. 資金面の支援が無い(持出)</p> <p>2. 取組事業の模索</p>
<p>1. 親族の無理解、誤解</p> <p>2. 成年後見制度の問題点（決定するまでの時間と費用、裁判所の姿勢 等）</p>
<p>ハタラク環境づくりに関する知識とお金。人を募集する広報手段。人を育てる時間と手間の余裕</p>
<p>事業収益を上げるためのノウハウを持っていないため、活動資金が不足している。（人件費を無視せざる負えない）</p> <p>一般的にはNPOがまだまだ浸透していないため、理解を得るのに時間がかかる（儲けてはいけないという考えがいまだに根強い）</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・月1回開催している絵本の読み聞かせの参加者が少なくなってきた。他に同じような場所ができ、他の居場所が見つかったのならいいが、その他の要因であれば心配である。（市の児童館も少なくなってきたという話を聞いた。） ・来年度、法人としては解散し、任意団体として新たに出発したい。
<p>地域性による高コスト体質（物流費高）</p> <p>既存他団体からの圧力</p> <p>支援対象者（地域）の意識の硬直化</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・事務所を間借りしているため、拠点があいまいであること。 ・事務的な面を担う人材がおらず、外部に頼っている。団体としてまだまだ自立できていないと感じている
<p>地縁組織の弱体化。</p> <p>役員任期が短命。</p>
<p>ラベンダーの苗の育成及び園内整備に大きな費用と人材が必要となる。当園で働く地域住民も開園10年を迎え、高齢化が進んできている。</p> <p>ラベンダーの開花シーズンには、多くの来客があるが、シーズン外になると来客数が減少してしまう。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・事業承継 ・人材育成
<p>資金、担い手、職員・スタッフ</p>
<p>CBR（community based rehabiritetion）を実践するための地域文化を育むのに時間がかかる。組織（機関・団体）間ネットワークが中心になると、個人間ネットワーク（つながり・だんらん）が育ちにくい。</p>
<p>コーディネーター人材の育成</p>
<p>人材不足、資金不足</p>
<p>協働する事業体との連携</p>
<p>制度。社会の急激な変化。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資金的な側面：就労支援や中間支援など、事業内容によっては補助金なしには運営が難しい。 ・後継者の問題：（補助金のような年度単位の資金に頼っているため）人材育成計画がたてにくい。
<p>行政の立場から、実施できることできないことの縛りがある。</p> <p>これまで地域における福祉活動を担ってこられた方々の高齢化や人口の減少に伴い、地縁団体等の衰退がみられ、今後の人材育成及び発掘が課題となっている。</p>

Q3-2-① つながりづくりについて (NPO)

今取り組んでいること

連携・協働による居場所づくりや、居場所を通じたゆるやかなつながりの中で、社会的課題を解決する仕組みづくり
 兵庫県栄養士会や看護協会など、専門職の士業に関わる会と関連があります。EC講座の開催やメディカルシミュレーションセンターでの講習の広報などです。
 CB・SB型NPOへの起業・継業支援及びビジネスマッチング
 多くの団体と一緒に事業を考えている
 ・近隣の国際交流協会とは、情報交換したり相談したりしている
 ・年に1回は団体連絡協議会で顔を合わせ、話し合う機会がある
 ・ひょうご市民活動協議会の会員&事務局
 ・加古川市民団体連絡協議会会員
 ・あかし市民活動協議会汪回会員
 過去において青年会議所 (JC)
 ネットワーク組織への積極的な参画。
 現在は連携していない
 以前は情報の共有を行っていたが、現在は該当なし
 他のNPOとの連携は今のところ行っていない
 ・活動を継続していきたい。
 ・活動の対象者は、毎年変わるので新しい気持ちをもって活動に取り組みたい。
 轟ラベンダー委員会や山口ラベンダー友の会と連携し、ラベンダーの挿し芽による苗の育成、植栽等を行っている。
 地域 … ひめされん、姫路自立支援協議会などを通じて、情報交換、協同行事等を行っている。
 NPOと連携し、自然体験などを行っている
 障害福祉サービス事業のダウンサイジングを目指し、地域共生のナチュラルサポートの拡大に取り組んでいる
 買い物支援、居場所づくりをNPOと連携して行っている
 社協や生協などと連携はとれていると思う。
 地域活動団体と協働 (まち作り協議会立ち上げに参画) ・地域子育て活動団体に向け、子どもへの関わり指導と協働
 相談業務を通じて各NPO団体と繋がり、情報提供を行っている。
 各種事業やイベントにおいて随時連携を図りながら協働を行っている。

今後取り組みたいこと

実施主体を共同体とした活動を通じ、横のつながりを活かした、包括的な支援ができる仕組みづくり
 士業の会はリカレント教育の機能を有しており、地域の高等教育機関として協力を行う必要があります。特に卒後教育の充実に取り組みます。
 NPO法人の出資参加による株式会社によるCB・SB事業
 子育てによるまちづくりをキーワードにした取り組みを継続していきたい。
 イベントなどで他のNPOに協力してもらいたい
 1. 多角的な実行団体との協力連携
 2. 地元企業との協働
 協働事業体への発展
 活動に余裕ができれば、特徴を活かした連携を行いたい。
 民間事業者との連携を考えたい
 花と緑を活かして、介護や子育て支援のNPOとコラボしたいと考えている。
 ラベンダーパーク周辺の自然林の緑化計画、現在ドウダンツツジを約1,000本植栽しているが、紅葉を楽しめる施設にするためミツバツツジやモミジの植栽を計画している。
 全国 … ヤマト財団・日本財団加盟事業所等を通じて、研修、職員派遣、情報交換などを定期的実施している。
 より連携して広報や事業の質を高める
 新たな連携先の開拓と多様な分野における連携
 老若男女誰もが参加しやすい場所づくり。
 スポーツ指導・子育て支援でご協力いただける連携を模索
 地域で必要と感じる子育て事業の充実と協働
 より多くの団体に対して情報提供を行い、連携を進めていくこと。
 随時継続して連携を図っていきたい。

障壁になっていること

・連携・協働できる団体や、活動内容を広げる術や機会
 ・個別支援へとつながる仕組みや連携、また個人情報への壁
 急な拡大は難しいのですが、効率的な業務推進により、教職員の能力を当該方面にも発揮するようにいたします。
 CB・SB型組織への行政の理解不足
 年齢的なものを感じるようになってきた。
 予算と計画する人員の無さ
 企業の意識の低調
 協働事業としてできそうな委託事業が少ない
 同じような活動をしている団体もあるため、オンリーワンのNPOを目指していく。活動がマンネリ化している。
 経営感覚の違い
 ・費用面 (収益) が課題である。(費用をかけてまで行ってくれない)
 ・活動を広げるための時間がない
 植栽後の水やり等の人材確保が課題である。
 コーディネート人材の育成
 交通の利便性が悪い
 企業によってはボランティア団体と考えているところがあり説明に時間がかかる事業体もある。
 福祉系の団体からは設立時の相談にとどまっておろ、なかなか連携できていない。
 活動状況等の把握が行えておらず、情報収集ができれば、新たなつながり方を模索することができる。

今取り組んでいること

・居場所づくりや、居場所を通じたゆるやかなつながりで、社会的課題を解決する仕組み
・施設協の活動を通じ、施設間の連携づくりや施設と地域との連携づくり
小学校の環境教育(3年)と自然探索クラブ(4~6年)の支援
地元高等学校や海外大学と提携を結び交流を図っています。社会福祉法人や兵庫県生きがい創造協会とは研究や人材育成等についての協定を結び、共に活動をしています。
他の団体の連携
プロジェクトベース、事業ベースでの連携・業務提携
各市町の社協とは関係づくりができています。イベント時の後援などを頂いている。
・困ったときに連絡している
・学校などから連絡や相談があった時は出来る限り協力している
・兵庫県社協や加古川市、明石市、高砂市、稲美町、播磨町社協との連携
・神戸大学、兵庫県立大学、兵庫大学、明石高専、明石清水高校、県立農業高校などとの連携
YMCA同士ではつながっているが他団体との連携活動までは手が回っていない。
十分に連携は取れている
講師派遣などの委託事業受注
・地域にある学校の草刈りを行っている。
・生徒の登下校の見守り活動。
・運営しているこども食堂とコープこうべが連携し、戸配で残った商品の提供を受けている。
加東市社会福祉協議会とはよい関係を築けている。互いの事業で、協力できている。また、社協との意見交換も行っている。
以前は情報の共有を行っていたが、現在は該当なし
・社協の評価会議の委員として、意見等を伝えている。
・学校とは、総合的な学習の時間を利用し、連携している。
・保育園とも、学校と同じように連携している
京都女子大学や神戸学院大学の社会学部の学生にイベント時の手伝い、アンケートによる集客増化をめざす取組等を提案いただいている。
東京学芸大教授等の主催の学会で学んだり、学会で当事業所の取組を発表したりしている。(日本発達障害システム学会参加)
大学と連携し、酒米、大豆などを栽培
非営利セクターとの連携により、障害福祉サービス、協働事業、市民ボランティア活動がより幅広く活動できている
今以上に細やかな連携が取れることが望ましい
商店街の子育て行事の情報を近隣小学校で配布いただいている
県立高校へ外部講師
事業の性格上、同分野との連携は欠かせない。利用者の高齢化は介護事業との令聞を必要としている。
・コープこうべと防災など地域の課題について協働を行っている。
・社協とは防災活動などを中心に情報交換・連携を行っている。
県立大学、市内高校と地域の課題や問題点について情報交換を実施してる。
各種相談の際に連携を行ったり、学校等へは福祉学習やボランティア募集を行っている。
食品ロス削減(フードドライブ)、高齢者見守り、防災・災害支援活動、買い物支援、居場所づくりを社協等と連携して行っている

今後取り組みたいこと

実施主体を共同体とした活動を通じ、横のつながりを活かした、包括的な支援ができる仕組みづくり
連携内容を充実させます。高等学校とは高大接続の推進、社会福祉法人等では生涯学習や学生への教育支援の他、地域人材の育成にもとに関わる予定です。
ネットワークの構築
RMO枠組みによる包括的枠組みの組成
・高齢者施設に外国人の派遣をしたい
・学校に日本語のできない児童生徒が入学した際、学校と連携してスムーズに対応できるようにしたい
積極的にこちらから事業の提案
ボランティアブラザ三木との連携を密にし、より地域に根差した活動を行いたい。
今後同じように良い関係を保ちたい
現時点では、考えていない。依頼があれば対応は行う。
多可町内の住民がラベンダーを育成し、当園でそのラベンダーからオイルを抽出する作業を行っている。休耕田等をなくすためにもその範囲を広げていきたい。
姫路社協が実施している共同募金活動に参加している。
大学の授業にさらに取り入れてもらう
過疎地域や高齢化率の高い地域での、生活を支えるデリバリーシステムの構築(多業態による地域福祉マルシェ)
30, 40, 50代への協力や情報源が乏しい
専門学校との連携を模索
高校生のインターンシップ受け入れやボランティア活動協力・保育関連の大学に繋がるように支援
大学など教育分野とも連携を深めていきたい
若年層が自分たちの住んでいる地域の課題等を積極的に考え、提案・発信していけるよう情報交換を通し「つながりあう社会」を築いていけるようサポートしていきたい。
継続して連携を図っていきたい。

障壁になっていること

・連携・協働できる団体や、活動内容を広げる術や機会
・個別支援へとつながる仕組みや連携、また個人情報への壁
・住民主体の地域福祉活動で、連携・協働のあり方
担当できる人材が少なく、代役が育っていない
本学が連携する組織は多様であり、個々へのきめ細かな対応が難しく、ご迷惑をおかけすることもあります。
つながる機会
あくまでみんながスターなのに、だれがトップを取るかの政争。
・予算と時間
・学校や教育委員会の理解
非営利セクターは低予算であるということ
任意団体としての関わり方が今まで通りでいいのか。どういう関係がベストなのかを模索していきたい。
休耕田に植栽したラベンダーの苗の育成及び草引き、刈り取りには大きな労力と人材が必要となる。
シンボルとなるような、キッチンカー・ドーム型テントなどの確保
ボランティアやインターンシップに来ることで、保育環境でも仕事が大変でしんどいと思ってしまう学生がいる

Q3-2-③ つながりづくりについて（地域団体）

今取り組んでいること
<ul style="list-style-type: none"> 概ね小学校区、市内全域71の社協支部組織を通じた、様々な地域福祉活動の実践 地縁組織の集合体である社協支部組織による、昭和37年頃より継続した、地域福祉活動
<p>地元自治会へは祭り等で参加をしています。高砂市商工会議所を通しての商店街での活動なども行っています。行政などを通し専門の教員の派遣なども行っています。</p>
<p>移動店舗事業における連携</p> <p>龍野では、多くの地域団体へ役員として参加し、団体を横断する動きへ誘導中。他地域では、アドバイザーの位置で参加。</p>
<p>イベントの案内をしている程度</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の人権学習会や女性会の料理教室などに外国人を講師として派遣している 商店街でのまつりには毎年参加している 日常的に連絡はしていない 明石市において地縁の再編に深く関わっている。 加古川市において中心市街地の商店街の活性化に関わっている。
<p>大手前通り協議会</p> <p>当法人は、姫路市全域が活動範囲なので、特定地域団体との関りは稀である</p>
<p>講師派遣など</p> <p>情報の共有程度は行っているが、事業面での連携は少ない。</p> <p>民生委員の方には、勉強会に参加していただいている。</p> <p>設立当初は、店主との連携を主にしてきたが、現在は該当なし。地域再生を目指す自治会との連携を行っている。</p> <p>自治会で花づくりの講師などを務めている。その他、商店街、区長会、婦人会などで花と緑講習会を開催し、美しいまちづくり行っている。</p> <p>団体が、まちづくり協議会との関係が深いので、地域の多くの方の協力を得ている。</p> <p>ラベンダーパーク周辺の草刈りを地元の集落にお願いして、イベントの前に年3回実施していただいている。また、老人会の方には、園内の草引き作業をしていただいている。</p> <p>地域団体と継続的に具体的な活動を行っていない。</p> <p>婚活の実施や村の行事に参加し、連携している。姫路の商店街で定期市に出店している。</p> <p>障害福祉サービス事業のダウンサイジングを目指し、地域共生のナチュラルサポートの拡大に取り組んでいる</p> <p>自治会・老人会などつながりを持てるように努力してる（広報など）</p> <p>おみぞ筋商店街の事務業務を受託。自治会の会計を受託。地元消防団の広報業務。</p> <p>地域の子育て支援（虐待などの見守り・相談）等民生児童委員さんと連携</p> <p>障害者差別に関する講演会の講師派遣要請に対応するなどしている。民生委員から直接相談員あてに問合せがあり対応している。</p> <p>大手前街づくり協議会などと若者のジョブトレーニングの一環で清掃活動を通じ、地域の活性化について様々な取組みを行っている。</p> <p>行政の立場から、実施できることできないことの縛りがある。</p> <p>活動状況等の把握が行えておらず、情報収集ができれば、新たなつながり方を模索することができる。</p>
今後取り組みたいこと
<p>地区生活支援体制検討会議において、地域生活における多くの課題が出てくる中、行政への提言だけでなく、地域の特性にあわせ地域性に富んだ活動の推進</p> <p>貴重種を地域の住民と保全していく</p> <p>本学のある東加古川地区全体がキャンパスとなるように、地区内にサテライトや学生の居場所づくりができれば、と考える</p> <p>子供たち</p> <p>地域団体から声がかかれば検討するが、現時点では考えていない。</p> <p>地域で外国人と日本人がもっと交流できるように活動の幅を増やしたい。</p> <p>積極的にこちらから事業の提案</p> <p>まちづくり協議会が行っているふれあいサロンに出向いて出張手打ちそば体験などを行いたい。（ふれあいサロンがマンネリ化し、役員が集まるのみになっている）</p> <p>民生委員は、地域のことを良く知っており、何か一緒にできることがあると感じている。</p> <p>自治会との連携を行っているが、それも尊重しつつ、個人との連携も考えている。地域によっては個人の考え方や取組みに対する温度差が大きいためそう考える。</p> <p>今後も継続して、講師や講習会を開催していきたい。</p> <p>ラベンダーパーク多可周辺の自然林の緑化計画、紅葉スポットにするため、植栽を計画しているミツバツツジやモミジの育成への協力を呼びかけていく。</p> <p>村・商店街全体の行事との連携</p> <p>5世代が集えるコミュニティづくり</p> <p>子供会などと連携していきたい</p> <p>企業・社会福祉事業体・地域・NPOと連携した防災訓練</p> <p>地域の課題（ニーズ）の掘り起こしと新たな連携先の開拓</p>
障壁になっていること
<p>担い手不足</p> <p>地域住民の中には土地活用や農作業に不都合が生じるのではないかと懸念を持つ方があり、地域住民対象の観察会が実施できない。</p> <p>本来の業務とは異なるため、独自の資金が必要になります。</p> <p>地域団体と日常的に情報交換</p> <p>外国人を紹介できるという情報があまり発信できていないと思う。</p> <p>ほとんどお金が動かない。</p> <p>商店会は意識に温度差があり、連携しにくい。その温度差は各商店の経営状態の違いだと考える。</p> <p>協力を得たい世代は、それぞれの職についており、イベント実施時以外には協力を得にくいのが現状である。</p> <p>事務や行事に追われるため現場での作業が弱い</p> <p>地縁の拡大</p> <p>地域の保育園などを気軽に避難場所登録をするなど、ハードルが高い</p> <p>情報の入手ルートの開拓</p>

Q3-2-④ つながりづくりについて (行政)

今取り組んでいること
・コミュニティ食堂ネットワーク会の取り組みを通じた、行政の各セクションとの連携
・行政からの受託事業における、各セクションとの連携
・行政の各部署の代表を集めて市内の貴重種についての学習会を実施
・環境体験学習のイベントに対して後援を依頼
加古川市、高砂市、稲美町、播磨町、東播磨県民局との連携協定を結び、専門の教員の派遣のほか、学生によるタウンミーティング参加やインターンシップ等を実現しています。
情報提供など
政策形成の相談。業務委託方式による施策展開の提唱。
理解は得られている
人権学習会へ外国人講師の紹介
兵庫県、神戸市、東播磨3市2町とは比較的強く連携している。特に、兵庫県と明石市においては、具体的な事業で繋がっている。
直接、自治体担当者との意見交換の機会は持っている
講師派遣、委託事業の受注
拠点であるわくわくステーションの運営に関する情報交換を三木市交通政策課と毎月行っている。事業面での提案は行っており、理解も得られている。
加東市の福祉計画に参画しており、福祉に携わるNPOとしての意見を伝えている。
行政の委託業務として開始し、現在は補助事業。行政側の予算確保の方法の変化に伴い、運営方法を変化せざるを得ない
行政から公共施設周辺の花壇整備の委託を受けている。
様々な制度や助成情報を得ており、サポートしてもらっている。
多可町役場とは緊密に連携し、指定管理料以外にも出店情報やイベント情報をいただき、当法人の収益向上に寄与いただいている。
月1回、障害認定審査会に出席。行政に対し、仕事の依頼 … 委託業務契約が取れた。
企画に後援や出店いただいて連携できている
障害福祉サービス事業のダウンサイジングを目指し、自治体職員との連携により市民の包摂力（ゲートキーパー養成研修）の拡大に取り組んだ。
朝来市で経済振興課内の部署と連携し、事業を展開。姫路城マラソン推進室から公式撮影を受託。姫路市広報課と写真コンテストを実施。
市教育委員会の委託により流域河川におけるハンザキの生息状況の調査
地域の保育園などを気軽に避難場所登録をするなど、ハードルが高い
・障害福祉計画の策定に参画
・市の総合計画に関し、実行委員として参画
日々の業務において関係しあうことも多いため、日常的に連携を行っている。
消費者の学習啓発などの分野でパートナーシップを発揮
今後取り組みたいこと
福祉関係の行政セクション以外と、必要に応じて連携がとれるよう日頃からの関係作りや、情報交換など
増田ふるさと公園のイノシシ対策
政策シンクタンク的な役割を果たすための研究会の実施と、それを自治体が予算化することにより、本来の意味での地方創生を実現することへの協力が必要です。
行政とパートナーシップ
行政向け（幹部級及び実務者級）の勉強会
現状と同じで、活動に理解を得ることができていけばよい。また、内容によってはコラボ事業もしてみたい。
教育委員会やいきいき社会創造課、保健課等との連携を図りたい。
積極的にこちらから事業の提案
良い関係はできているが、人件費などの経費面ではまだ十分とは言えない。収益を上げる努力もするが、最低賃金以上を払えるよう理解を求めていきたい。
任意団体になっても、参画していきたい。
独立しても採算の採れる事業化。対等なパートナーシップを築きたいと考えているが、そうはなっていない
行政の退職者が多いため、今後も行政が担いきれない部分を担っていきたい。
ラベンダーの育成を町内の耕作放棄地や遊休地で行っていただいているが、そのラベンダーから抽出したラベンダーオイル等の販路拡大を目指した取組を進める。
より多様な分野、市町レベルでの連携強化
行政の委託業務の実施
コードモサポーター養成研修の新設とサポーターバンクの設立
地域団体及び地域住民との連携の促進
・ハンザキや他の水生生物を中心とした図書館づくり。
・ハンザキをとりまく生物の飼育展示（水族館）
市の待機児童解消に向け潜在保育士確保に向けての取り組み相談・支援センターと子どもセンターのしっかりとして連携
障壁になっていること
一つの事象に対して、複数の行政セクションと連携する場合の縦割り窓口や、主たる担当セクションが不明瞭になる点
市の予算が十分でない
行政の公平性が優先される場合もありますが、当該地域唯一の本学を、地元立の大学として扱い、共に行動することが不可欠と考えます。
行政の搾取

行政から連携したいと思われる団体となっているのか。
お互いの活動の情報交換がなされていない
H市のNPO毛嫌いと実績優先主義
NPOが運営している＝安いというイメージ
伝えた意見がどうなっているのかが見えにくい。担当により、様ざままで、難しいことかもしれないが住民が自主的に行うことをうまく支援してほしい。
行政担当者が変わる度にその事業コンセプト・内容が変わる。行政は単年度決算、民間事業者としては中長期的な資金運用（償却等）の考え方の違い
現状では良い関係づくりができています。
NPOのことを担当レベルで理解しているのか不明
大型商業施設や兵庫博覧会などへの出店情報を多く得ているが、職員が対応できることに限りがあり全てに応じることが出来ない。指定管理料が減額される。
より連携を深めること
行政での予算取り
1. 行政の入札制度により入札参加に照明知識も低い企業が、低価格手落札 2. 活動事業(例:工作教室等)に関して行政の広報支援
資金、人材
潜在保育士は沢山登録があるが、次にステップするまでに時間を有する人も多い。
担当者次第で、制度運用上の柔軟性が変わる点
コーディネーター人材の育成

今取り組んでいること
<ul style="list-style-type: none"> ・姫路企業Vネット28社のネットワークによる、福祉活動を通じた連携 ・施設協、市内138の施設等の連携による、社会福祉事業の進展 ・共同募金の趣旨説明や協力依頼
但陽信用金庫など地元企業との連携により、インターンシップの受入などを行っています。
保育所運営をベースとしたCSRネットワーク、龍野RMO
イベントに協力を得ている。子育て世代をターゲットにした企業とのコラボ（コブこうべ、ヤクルト等）
法人会員には広報誌の配布など情報提供をできている。
<ul style="list-style-type: none"> ・地元企業や経営者との情報交換は多い。 ・主に地元メディアであるBAN-BANネットワークスとは連携協定を結び、協働している。
ウシオライティング㈱
企業の問題解決が当法人の力の見せどころである。顧問契約を依頼されるなど、具体的な成果も上がっている。
H市のNPO毛嫌いと実績優先主義
民間企業との取引を増やし、独立した事業化を目指している
小学生を対象にした、地域の企業を知る体験を行っている。地域でいつも見る会社を知ることで、将来、地域で就職する、地域に住むことにつながる。
ラベンダーオイル等を使った化粧品の開発、製造を依頼している。
取引先企業に対し、定期的に担当者話し合う機会を持ち、業界の情勢などの情報を得とともに、仕事上の相談にも乗ってもらっている。
協賛、出店、応援をいただき、情報交換している。
一般企業への就職者の拡大と就労定着の促進のために支援員が積極的なアウトリーチに取り組んだ。新規事業（商品開発）の設立。
近年、理想を共有できる企業様とのご縁が加速しています。
博物館・水族館動物園などと刊行物交換
<ul style="list-style-type: none"> ・企業主導型託児所運営協働運営・企業からの依頼による託児委託（イベント等の託児） ・院内託児（企業主導型事業）の立ち上げ相談と支援
就労支援の現場において、地域の企業とかかわることができている。
各種事業において協力を仰ぐこともあり、また職員向けの福祉学習等の実施も随時行っている。
今後取り組みたいこと
多様な連携によって、地域福祉活動が推進できるような取組み
資金面、物品面での支援を受けたい
本学が強みとするヒューマンサービス分野の研究成果を活かし、企業等の人材の育成や健康の維持など働き方改革への貢献が考えられます。
播磨RMO
コラボは続けていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・企業訪問をして、情報提供をしたい ・活動に賛同してくれる法人会員を増やしたい
ウシオライティング㈱
インターン事業やキャリア教育プログラムの充実
民間企業との取引を、今以上のものにしたい
依頼があれば考えていきたい
市内には多くの外国人が住んでおり、企業と連携し、外国人にも地域を知ってもらい愛着を持ってもらうための事業を行いたい。
自社開発製品を多くしていきたい。
より、協賛、出店、応援をいただく
HSP（ハイリーセンシティブパーソン）への新商品開発
現状のご縁を大切に、当団体の理想にご理解いただける企業様のご紹介を積極的にお受けしていこうと考えます。
連携している企業の横のつながりで他の企業から子育て事業について相談を受けている。それぞれの得意分野で協働できたら良いと感じる。
継続。就労訓練をするうえで、様々な職種とつながっていることが望ましいと考えている。
会員企業を巻き込んだ活動の事業化を行い、多角化を計りたい。
継続して連携を図っていきたい。
障壁になっていること
企業の通常活動以外の時間が必要となるため、時間的制約のある中で効果的に連携すること
情報がない
相互の理解が必要になります。
団体のことをどこまで理解してもらっているのか、不安に感じる時がある。
企業へのPRが足りていない。
社内の理解度の浸透
営業活動ができる人材不足
委託（現在は補助）事業の内容と、自立に向けての採算事業との境界の明確化。採算事業を増やすと、行政の役割である不採算部分の補助が減らされる。
ラベンダー精油やフローラルウォーター、ラベンダー製品の販路拡大を行う。その一つとして、企業向け販路も考えたい。
継続性
デザイナー・パタンナーなどとの連携
企業によってはボランティア団体と考えているところがあり説明に時間がかかる事業体もある。
地域特性上、限られた職種しか紹介できないジレンマがある。就労能力はあっても通勤手段がないことも。

Q3-2-⑥ つながりづくりについて（議会、政治）

今取り組んでいること
取り組んでいない
高齢者、障がい者福祉に力を入れている議員とは意見交換している。
西宮市長に表敬訪問
関心持っていない（政治不信もある）。
市議会で、関心ごとの意見を述べたことがあります（数年前）。顧問（国会議員）がいます。
難病支援に向け本会議に向けての意見交換・子育て環境整備について議員会派による視察協力・子育て環境について本会議傍聴
行政区出身の議員との情報交換
CS神戸を通じて議員との意見交換した。
情報提供・情報共有・議論等
市議会と協働事業開催をしたり、広報支援をしたりし、議会中はネットや現場で傍聴している。
地域選出の国会、県会、市会議員の政策を注視しながら、個別に支援協力者との交流を図っている
議員に自閉症についての理解を深めていただくために意見交換をしたりしている。
特に関係していない
④のレバノンでの事業では、国、県、郡レベルでの議員との接触があります。
姉妹都市交流事業を通して、議会、議員との接点があり、集会所トークや協会主催の種々のイベントにて交流を実施
年間活動報告や、年3回発行の広報紙を市議会の各議員あて送付している。
定期的な事業所訪問を促す
政策についての提案
議員とは常に情報交換をしている
地域の議員さんが会員になってくださっているが、政治的なことのかかわりはない。
市、県、国の議員との意見交換や提言、お願いや情報共有は積極的では無いが行っている。
特に休眠預金については常にアンテナを張っていた。
議員が中間支援の現場をより知るために視察に来た。それにより、もっと市民活動を支援するべきだと助成金支援を提案し実現した。
関心は少なく、意見交換、情報提供等もない
やや距離を置いている
駅前議会
「宝塚市作業所連絡会」での宝塚市に対する「要望書」の提出。
宝塚の文化に関する勉強会の開催
多くの議員に賛助会員になってもらい意見交換の場を持っている
議会、議員に対しても、必要に応じて、情報提供し、議論の場を持つようにしている。
議会・議員との交流はありません。
関係する議会に参加、議員との意見交換
市民派といわれる議員とは、情報提供などの機会はある。
社協の評議員や各種委員として運営や事業推進に参画
議員との福祉政策
各党派と社協との懇談会の開催
法人としては出来ていない
活動について議員に通信を送っている。
議員とは個別に関係性はあるが（議員が当団体のイベントに来てくれるなど）、体系的な取り組みではない。
障害者・高齢者の「文化・スポーツのひろば」を超党派で取組みするための協力。
地方議会とは実施、中央政府とも出来る関係に有る。
党派に関わらず様々な議員による「相談」や「情報収集」に応じている。
指定管理事業において「議会の仕組み」を学び「議会傍聴」をする講座を実施している。
先日、NPOフォーラムで東灘区のNPO数団体と議員さんと意見交換をし、NPO活動についての理解を深めていただく機会を作った。
定期的に議員との意見交換は行っており、ニュースレターを送付するなど情報提供も行っている。
市議会、県議会議員への現場視察。情報提供。
議会への関心あり、議員との意見交換も必要に応じ行っている。
一部の議員の活動報告会に参加したことがある。
決算委員会や指定管理に関する委員会の傍聴は、必ず行っている。
選挙の際のタウンミーティング実施。
フリースクールの出席認定ほか、学習の機会確保のため、議員への働きかけや、文教委員会での発言などを行うことができた。
政策決定に係る重要な事項は、情報提供、協議を行っている。
市議会議員とのつながりを持ち、活動を見て頂く機会や、市との意見交換の機会を持っています。
議員から、事業の聞き取りはあるが、意見交換や政策議論の場はない。
議会議員との情報交換は行っている。
西宮、宝塚の市会議員との情報交換、特に福祉関連の情報を得ている。場合により議会傍聴もしている。
地域福祉の推進に関して、兵庫県に政策提言を行っています。
NPOや協働に関する取り組みについては積極的に提言を行う。

今後取り組みたいこと
定期的な情報提供
県議会議員との補助犬事業の仕組みについて意見交換
市長や地域の意見から、市の事業にいかすことが出来るように議員さんからの質問などの協力
区民が必要とする地域・生活サービスへの政策提案
今後も継続して議員と意見を交換を深めたい
議会に関するセミナー等
地域の解決課題に対する政策提言ができるようアドボカシーの力を養っていききたい
協会全体が政治利用の場にならないように配慮すること
急増する外国人住民の状況や、自治会、学校、医療等の現場の情報を発信していく。
事業の標準化に向けた取り組み
議員に地域の繋ぎ役になってもらいたいと考えている。市民活動支援の議員と定期的な情報交換の場を持ちたい。
障がいのある方の代弁者としての役割を果たしていきたい。
政治的な関わりについては、距離をおいています。
現状維持していきたい。
社協活動や地域福祉の現状等の情報提供から、政策議論の展開。
議員に積極的に困りごとを話す。
情報提供と意見交換をしていきたい
現状では、これからもアプローチする予定はない。
NPOと政治との関係性に新たな視点が必要ではないかと感じている。
NPO法が超党派議員立法でできたように、今後もそういう動きが可能ではないか？
定期的に議員への情報提供を行っていく
情報提供をしていきたい
当法人の取り組みを多面的に発信し、議員への理解を深める。
議会傍聴や、議員の視察受け入れなどを積極的に行いたい。
各党派との意思疎通強化
福祉活動の周知や福祉情報を提供できる体制を整える。
高齢障害者の移動支援の対応は各市とも検討課題です。意見交換、対応策協議必要
NPOや協働に関する取り組みについては積極的に提言を行う。
障壁になっていること
多忙＝日常業務で追われてしまう＝人手不足
そのような場を設定すること自体が高いバリアとなっている
これまで議員とのつながりはほとんどなかった。政治力は必要かと考えるが、適切なつながり方やあり方については、学ぶ必要があると考える。
中立・公正を軸に活動する団体としては、政党に利用される危険を恐れて、政治的集会への参加が消極的になる
メンバーの関心の低さ
日常の業務に追われて、時間的余裕が持てない。
社会運動をしていく中においては、議会・議員との連携も大切ですが、法人として政治的中立性を担保することが大切だと感じます。
ある政党や会派に偏らない仕組み。
法人内で具体的に話し合っていない
超党派で連携する方法
今後は労働力としての外国人の必要性の高まりから議員の意識も少しずつ変化するかもしれないが、現在では投票権のない外国人への関心は薄い。
市の担当課との兼ね合いもあり、議会に働きかけにくい。
会派の基本方針と指定管理の考えが合わないところが大きな障壁である。
現場を抱えており、傍聴に行く人的余裕がない。また、視察受け入れは、議員のスケジュールが優先されるケースが多く、マッチングが困難なケースが多い。
マンパワー、資金不足

Q3-2-⑦ つながりづくりについて（中間支援NPO、ひょうごボランティアプラザ）

今取り組んでいること
市民活動ボランティアサポートセンター運営会議への出席等
NPO法人としての各種申請書類の記入などについてアドバイスを受ける
シミズシーズと連携協定を結ぶほか、ひょうごボランティアプラザとは被災地ボランティアへの学生派遣や学生の発表、交流などで積極的に関わっています。
定期的な情報交換
情報提供や事務局を中間支援組織に担ってもらっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に情報交換をしている ・分からないことがあったらすぐに聞く ・困ったときや悩んだ時には助言をもらう
助成金の申請。災害時の情報共有。会議スペースなどの利用
実務面での支援は、必要に応じて得ている。
手続きなど困ったときに相談している。
以前は情報の共有や支援を受けていたが、現在は該当なし
中間支援団体とは、日常的に事務的なアドバイスを受けている。また、その他中間支援団体が行う事業の協力等も行っている。
NPO法人の運営に関して、アドバイスを受け支援いただいている。
NPO法令について、教授、助言をえている。
情報をいただいている。助成を受けて事業も実施。生サボさんが事務局の子育て事業でも出店・協力。
NPO法人立ち上げ時にチャレンジ助成を受けた（チームジョブ構築）
法人運営上の相談をし、助言をいただいている。
ひょうごボランティアプラザとは防災活動などを中心に日常的に情報交換や協働事業などを行っている。
起業やNPO設立等についての助言を受けている。
ひょうごボランティアプラザに関しては日常的に情報提供等をいただいております、その他に関しては随時情報交換及び連携を行っている。
居場所づくり、防災・災害支援などのテーマで助言を受けたり協働事業を行ったりしている
今後、取り組みたいこと
互いの強みをいかし、必要に応じて連携できる取り組み
地元のシミズシーズとはより一層の協力関係を強化したいと考えます。
助成や助言を受けたい
中間支援NPO連携による共同出資会社の設立
任意団体になっても相談したい。同じ分野で活動している団体の意見交換などを開催して欲しい。
支援をしている地域へ、中間支援NPOや、ボランティアプラザの情報を提供したい。
お互いに事業面で助け合うことができれば良い。
会計に関して、指定管理料の減額に対応するための収益拡大の方途
より助成を受け、活動が飛躍できるようにする。
人材発掘の相談
NPO法人に事業展開の相談
継続
継続して連携を図っていきたい。
福祉関係以外の活動との関わり方等
特にないと思います。
日常的な情報交換
寄付者に対するのメリットがあるのかわからないため、積極的には増やしていない。
近隣に団体がなく、地域（西播磨）から地理的距離がある為、つながりにくい。
募集数も多く、継続して採択いただいているため、今年助成を貰えなかったため、活動の継続性、資金面が課題

Q3-3 支援者・寄付者について

今取り組んでいること
<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉活動に関心を寄せるきっかけを作り、一人でも多くの人が地域の支えあいに参加できるような取組み ・寄付者については、使途等がわかるよう広報等による周知 ・年1回の福祉推進委員会における、日頃の活動に関係する講演会の開催
助成金の募集に気を付けておく
寄附については必要性を理解していますが、具体的に取り組んではいません。支援者の拡大については、同窓会との関係の強化を図るほか、連携協定に基づく活動や生涯学習、施設の貸与を通して、本学を訪れる関係者の拡大を図ります。エクステンション・カレッジでは会員制度を設けており、ファンを増やす努力をしています。
不十分な説明
季刊紙で会員や寄付者の募集を、毎年6月実施している。 <ul style="list-style-type: none"> ・寄付3000円（賛助会員3口）以上かつ、100名以上確保を目指した取組み。 ・財務担当部会を設け、戦略的な取組みをとっている。
寄付者を増やす努力は行っていないが、稀に寄付を頂く。（賛同を頂いている炭商品販売の一部を寄付とし頂いている。市内中学校の同窓会会費の一部を頂いた。） <ul style="list-style-type: none"> ・努力はしているが、増えない ・社会的役割は果たしていると思う ・ボランティアは良く集まり、協力してくださる市民の方が多い
十分なことはできていない。
活動の説明や寄付依頼は常に行っている。成果も出ている。
災害復興事業や障がい児事業など特定の活動に対して寄付金募集
寄付はない
支援、寄付は考えていない
正（賛助）会員を増やす努力は行っており、会員にはNP0の意味などを知ってもらい、目的などを共有している。
特がない
年会費1,000円で正会員とサポーター会員を募集している。正会員は発足時以来60～70名、サポーター会員は、発足時より徐々に増え平成30年度には、185名となっている。
継続して寄付を集める活動を実施
議員とのネットワークがない
自分たちの活動をより多くの人たちに知らせ、支援者を増やすことが大切
竹田城にゆかりある太刀の復元事業ではクラウドファンディングで全国から382万円の支援を募ることができる。
特がない
自主事業で保育サークルを運営しています。利用者希望者の方に賛助会員として、入会金を収めて頂いています。
広報紙等の媒体を活用し、情報発信を行うとともに町内会長や民生委員等の皆さまには直接ご説明をしている。
今後取り組みたいこと
<ul style="list-style-type: none"> ・社会情勢の変革に対応し、安定した法人運営に努める ・共感を得ながら事業を進めること
寄附の受け入れ拡大については今後取り組む予定です。
事業の十分な説明や情報提供をする
本会の使命が支持をするに値するがゆえに寄付をしてもよいという大口寄付の開拓。 <ul style="list-style-type: none"> ・支援者や寄付者（会員）を増やしたい ・法人会員を増やしたい
情報提供は行なっているものの会員や寄付者の数は多くなく、積極的な拡大も行っていない。
現状の維持
クラウドファンディングなどを含めた寄付事業の展開
寄付は当てにしていけないため、考えていない。
企業などからもらえればありがたいが、
今後も考えていない
小野市では、シニアボランティアを推奨しており、ポイント制度もある。今後、シニア世代の生きがいづくりに寄与したい。
前年度の会員には、次年度も継続して呼びかけを行い、一緒にサポートしていただける方を増やす取組を進めている。
サポート会員になれば、フローラルウォーターをプレゼントするなど、入園無料以外の特典がある取組をする。
より支援者・寄付者を集める
今度、クラウドファンディングやソーシャルインパクトボンドを検討中
事業展開ための協力
会費や募金がどのように使われているか、より分かりやすく、また積極的に情報発信していきたい。
障壁になっていること
<ul style="list-style-type: none"> ・各媒体を介した広報能力の不足 ・興味を持って見ていただく方をどのように増やすか
応募できるものが少ない
特ありません。
説明や情報提供の仕方が出来ない
本会の存在と活動内容が周知されていない。
寄付者に対するメリットがあるのかわからないため、積極的には増やしていない。

情報提供があまりできていないと思う（HPやFacebookなどを利用して情報提供を行っているが興味のある人にしか届いていないように感じる。）
NPO団体参加メンバーに留まる
企画運営できる人材の不足
情報発信の方法がわからない
疲弊した地域での、支援や寄付は望めない、と考えている
年齢的な面で積極的に活動を広げることができない。
サポーター会員の内、40名くらいは草刈り作業やラベンダーの摘み取り作業にも参加してくださっている。園運営に関して、出来るだけ多くのサポートいただけるよう働きかけたい
継続性・資金面
研究が必要
寄付など協力の依頼をするのが上手ではない

Q3-4 組織運営について

今取り組んでいること
<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法改正による法人制度改革における、社会福祉充実計画の円滑な遂行 ・地域福祉推進計画の円滑な遂行
<p>会員個々の力量アップ</p> <p>学校教育法に基づく組織として、法を順守しての組織運営を行っています。</p>
<p>活動の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き方の改革 ・NPO法人として取り組む業務と、関連他組織で展開している事業の整理と再配置 ・任意の団体よりNPO法人組織のメリットは大きい。 ・定款に沿った運営を心がけている。理事会、通常総会の運営。 ・監査は会計監査と業務監査の両面にわたって、3人の監査人から見てもらっている。そのうち、1人の税理士から専門的な立場で会計処理について助言をうけている。 ・職員は日商3級程度の知識・技能を習得。
<p>法人格を取ることによって生まれる事務的な義務を担う人材がいないため、法人格を取るとは考えなかった。法人格を取ることのできたことがあるかもしれないが（助成金など）、任意団体でも各地域からの参加や理解を得られていると思っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画会議（2か月に1回、奇数月に開催）で様々な企画や案を出し、理事会（2か月に1回、偶数月に開催）で承認することで、事業がスムーズに進んでいる ・各事業に必ず担当、副担当が付き、連絡や相談がきちんと出来ている ・理事全体で共通認識を図っている ・働き方については実際の現場での動きに合わせて先駆的に制度を改革している。 ・報告や決算については模範となるべき存在であることを意識している。 <p>報告、決算を期間内に報告はできているが、情報の開示はこれから予定している。</p> <p>当法人は、既存にない活動をしている。</p> <p>非営利でなければ成しえない活動内容であるし、優秀な人材がいなければできなかった事である。</p> <p>さまざまな働き方の模索</p>
<p>組織は常にオープンにしている。</p> <p>スタッフには事業の目的、計画はしっかり伝えている。</p> <p>法人格を持つことで格段に信頼性が上がったとおもう。特に行政と連携するには必須であった。</p> <p>NPO法人として活動していく中で、法人だからこそ行政との意見交換ができたと思うし、様々な場所から信頼ももらった。しかし、法人としての義務が負担に感じてきたため、法人としては解散を考えている。</p> <p>NPO（任意団体）では運営できないと考え、株式会社を設立し法人化した</p> <p>NPO法人になって良かったと考えている。法人だからこそできた事業もあり、信頼性は確実にあると思う。</p> <p>法人だからこそ、依頼がある事業もある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動資金は大きくないため、助成金などによって得ている。 ・昔はNPOがどんな団体か理解してもらおうのが大変であったが、最近では一般の方でも理解していただいている方もいる。 ・法に沿った運営はできている。 <p>NPO法人北播磨ラベンダーは、地域住民が働き手の中心になり、「ごはん亭」のたまごかけご飯や「喫茶ラベンダー」のラベンダークリームソーダなどが人気を集めるようになった。</p> <p>無認可作業所から法内施設に移行できたことは、NPO法人格取得が有効であった。報告、決算は期間内に報告している。社員全員に対し、年2回事業説明会を行っている。監査は機能している。</p> <p>パナソニックの助成を受け、組織診断、組織基盤強化を実施、事業の質を高め、新しい働き方の提案している</p> <p>決算等を報告</p> <p>NPO法人として適切な運用に努めている。報告決算の期間内報告、法令順守、定款遵守等においても、随時確認しながら運営している。</p> <p>報告は会員には定期的に行い、年度末は決算報告も正確に行っている。</p> <p>まだまだNPO法人のメリットを生かし切れていないと考えます。</p> <p>後継者づくりに有効</p> <p>主婦のサークルからNPO法人になったので、意識改革に時間が必要でした。また、ワーク、ライフのバランスを考え就労支援をチームジョブ形式で行って上でも働き方の意識に差が出て研修やミーティングなどに時間を要した</p> <p>以前と比べれば、NPO法人の認知度が上がっていると考えられる。が、それは一般社団法人を見た時にわかるものであるもので、絶対的な評価が上がったのかまでは、わからない。</p> <p>現在県内で2000以上の団体が活動しているという点ではNPO法人は有効な手段だと考えるが、他のNPO法人についても資金や後継者の問題など課題は多いとの声が多く聞かれる。自団体も同様。</p> <p>より地域の声を届けていただけるよう、役員を地域の各種団体や行政、当事者団体の方などに担っていただいている。また、情報収集を行いながら、適切な運営を行うよう努めている。</p>
今後取り組みたいこと
<p>総合福祉会館（仮）での新たな業務の流れ</p> <p>ふるさと公園検定を実施する</p> <p>今後も法令順守を行います。</p> <p>事業の強化</p> <p>ひとまちあーとのHDカンパニー化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拡大する業務量に応じたスタッフの対応ができないことがある。 ・決算はHPに掲載するように定款変更した。（H30年5月） ・NPO法人についての学習を理事会（役員会）で実施することで、NPO法人の適切な運営法を学習する機会を設けている。 <p>ゆるくつながって、無理せず続けていくことができれば良い。</p> <p>メンバーが楽しく活動できれば良い。</p> <p>若い世代を増やしたい</p> <p>NPOらしさを追求した新しい組織運営にチャレンジしようと考えている。情報交換できる組織を探している。</p> <p>参加人材の確保</p> <p>求められる支援に出来るだけ答えていきたい。</p>

子育て中の親、高齢者、障がい者などが働きたいと思える職場づくり
スタッフにNPOのこと団体のことを理解してもらう。スタッフには最低賃金以上が支払えるようにする。事業規模を大きくしていきたい。
任意団体になっても今までの関係性は崩れないことほと思っている。報告などの義務はなくなるが、会員・支援者には今まで通りNPO法人に準じた方法で運営していくつもりである。
株式会社として、地域課題の解決を事業化していく予定である。新たな働き方の提案。地域内ではコーディネート、デザイン、情報発信等の知的労働に対しての評価が低い、というより費用発生の考え方がない。それを変えない限り次の世代の活躍の場はない
事務的な面での理解が乏しく、自立できていない。今後、そこをスタッフに任せていけるよう理解を深めていきたい。
・次世代を育てる時期に来ているかもしれない。(活動者は60歳以上が中心) ・スポット的に参加していただいたスタッフをメンバーにする努力を行いたい。
決算や報告は必ず期限内に行っているが、議会で一部議員から指定管理料減額について意見が出されている。地元植栽のラベンダーの育成が順調に進めば今より多くのラベンダーオイルの抽出が期待できる。販路拡大の取り組みを進めていきたい。
事業承継
NPO法人の特性を生かし、より市民活動を発展させたい
自立できるNPO法人を目指し民間の経営のノウハウを積極的に学んでいきたいです。
子育て支援が中心で保育士集団の法人ですが、中には保育士を目指す人や教員の免許はあるけどは保育士の資格が無いため、サポートとしての役割しか担えない者もあり、活躍に制限がかかるので、資格がない桃も含め、新事業に向け法人内でプレゼンを行い夢をつないでいきたい。
安定的、継続的運営。
引き続き、より多くの地域の声を聞かせていただき、少しでも形にできるよう努めるとともに積極的に情報収集を行う。
障壁になっていること
仮事務所での業務
テキスト作成が進んでいない
資金
中間層人材の育成
・組織を継続発展させるには、関係者にある程度の報酬を支払う必要があることは、理解出来ていても資財不足が問題となっている。 ・資金源開発の戦略法が描けていない。 ・特定の人に仕事が偏らないようにするための人材育成。
メンバー間の温度差
予算(人件費)
後継人材の不在
環境づくりに関する費用、知識など
現時点ではボランティア(有償)であるため、強制できないことが多い。人材がいない。会計を担う人材がいない。
任意団体として再出発するにあたり、全く不安がないわけではない。
行政、住民双方の仕事や団体(企業を含む)運営に対する意識が低い。行政には、新たな価値の創造が組織運営の収益になるとの考えを持つこと、住民には行政への依存体質を改めること
事務面を若い方になってほしいが、若いスタッフが少ない。事務面での知識を持っていないスタッフが多い。
ボランティアで活動しているので、嫌なことを押し付けられない。
NPO法人北播磨ラベンダーの運営に関して、理事会で決定したことを事務局で実践していくことになるが、理事の方々への情報提供を密に行い、多くの知恵と力を結集した組織に育てていきたい。
人材育成
資金面と継続性
法人職員の労力とのバランス
人材不足

Q3-5 地域や社会に与えたと考えられる具体的な影響や成果など

<p>兵庫大学の設置により、東播磨地域での高等教育の受け皿が出来ました。学部数の拡大を図っており、学生数の増加と卒業生の地域での定着にもつながり、若年者人口の拡大にも寄与したと考えております。特に、地域の生涯学習拠点を目指すとの観点から、地域との関係を強化しています。例えば、大中遺跡祭りの企画運営など、学生の地域での活動の場を増やし、学生を受け入れて下さる地域により影響を与えています。行政や商工会議所との共同研究により政策に影響を与えるほか、生涯学習機関としても多くの学習者を受け入れています。</p>
<p>城下町・龍野における改革を一定レベルの成果を挙げつつあると考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校や行政のすき間となっている子育て支援や教育支援事業を行うことで、これまでにないサービスの提供ができています。 ①通年実施の複合施設での放課後子育て支援。教員OBと現役大学生のペアで運営。 ②夏休み中の「宿題支援」「工作教室」「読書感想文支援」を市内各所で実施。 ③月1回の「親子教室」開催。親子の絆をその時々を通して深める。 ・地域で活動中の団体や学校とのコラボレーションを通して、住民に暮らしている地域の良さを再認識する機会を提供したり、可能性を秘めた若者を紹介している。
<p>イベントを企画すると各地域（北播磨地域5市1町）から人が集まり、参画してもらっている。市町にとられない、地域の枠組みにとられない活動ができており、地域全体に団体が目指す子育て支援を広めることができていると考えている。そして、3世代、4世代が集まる場づくりを行なっていると感じている。地域の今のニーズを取り入れた事業展開ができています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異文化理解が増えた ・姉妹都市交流が、市民レベルで活発になっている ・地域と外国人のニーズをうまくコーディネートし、お互いの利益になるように活動できている
<p>1. 指定管理事業の公共施設において、管理・監督型ではなく利用者（県民）参加型の運営を目指し、他者ではなく自分たちが運営する「私たちの大切な場所」意識の醸成に努めている。</p> <p>2. 明石市において、行政や外郭団地と連携し自治会の改革に取り組んでいる。具体的には中核都市における小規模多機能自治の形成業務を行なっている。</p> <p>両方とも、一定の成果を上げており、市民の意識変化はもちろんのこと、先駆的な取り組みとして視察や講演依頼が多くなっている。</p>
<p>子ども達の成長のために、地域や世代間、異文化との交流などを深めていくこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「あかり子ども工作教室」の継続実施による、子どもたちの興味を高める事ができた。 2. 過去には冬のイルミネーションコンテストをやって好評で地域のあかりを広めるのに貢献したがコンテスト参加者が限られマンネリ化して中断している。
<p>当法人は、「法的な対応・対処」を迅速に行う、という支援が出来る。企業に対する業務妨害や社内におけるパワハラ・セクハラの解決、法定後見の迅速な対応、犯罪行為への対処等、成果は数多い。中でも、昨年当法人は姫路家庭裁判所において、法人による成年後見人の第一号に選任された事は特筆すべき成果であろう。</p>
<p>社会教育業界、子育て支援業界などが少し新しい切り口で展開をできたようには感じる。</p> <p>NPO法人になり、様々な事業を行う中で信頼されてきた。その信頼を得て、地域の産業廃棄物置場であった場所が、現在は地域住民（特に高齢者や子ども）にとっての癒しと憩いの場（わくわくステーション）となり、地域に貢献できた。</p> <p>高齢者が多い三木市自由が丘地区においては、新しく居場所をつくれたことは大きいと感じている。</p>
<p>自分たちが学びたいと思っていること、世の中の人にとって特別なことではなく、身近で悩んでいることにたいする勉強会を開催してきた。地域の方が少しでも、学びの場になり、また、学ぶきっかけになり、理解が進めばと思っている。また、当事者の参加も多く、自分だけじゃないと思ってもらえたのではないかと考えている。参加者が互いに意見を交わすなど、勉強会から生まれるつながりも多く、このことも成果ではないかと考えている。</p>
<p>現在の事業において、兵庫県下各地の小規模集落へ、神戸を中心とした都市部の外貨を獲得する流通を構築し支援をしている。地域では、決して新たな取り組みではなく、従前の作業（農作業）から生産される商品に価値があることの意識の変化を訴えただけである。</p> <p>結果として経済的効果にとどまらず、生きがいの創造、積極的な次の取組みへの工夫、地域コミュニティの再構築等の成果が出ている</p> <p>また、弊社スタッフにはその支援意識が高く、スタッフ育成の面でも大きな成果が出ている</p>
<p>花と緑でまちづくりを行う、当初の目的は順調に進んできていると思う。また、団体に関わるスタッフもこの活動を行い、自信と誇りを持って活動ができており、生きがいにつながっている。</p> <p>活動の対象に子どもたちが多いため、子ども達からまちで声をかけられることも多くなった。先生や親ではない、地域の大人と知り合う機会ができ、地域の人と子ども達が顔見知りになるととてもうれしく感じる。こういったことが「つながる社会」であると思う。活動において、このことができていくのは成果だと感じている。</p>
<p>法人格をもたなくても活動できるNPO法人が少なくない。何故、法人格が必要だったのかの検証をしていただきたい。行政から見ると「法人格」を得た団体へ委託事業がお願いしやすくなってきているが、日本のNPO法人は組織が小さく、継続性について不安であると行政のつぶやきが聞こえてくる。</p>
<p>ラベンダーパーク多可には、約3.5haの敷地に約2万本のラベンダーを植栽している。開花シーズンには多くの来園者が訪れる施設に成長してきた。平成25年度にはラベンダーの半数が枯れる事態に追い込まれたが、地域住民と共に試行錯誤を繰り返し、数年で枯れないラベンダーの育成が出来るようになった。ラベンダーパークでイベントを行うと、地域の道の駅等にも観光客が多く訪れるなど町の活性化にもつながっていると考える。</p>
<p>棚田の12枚の再生、婚活で24組、1組結婚の実績、メディアに149回掲載、自然体験者5000名以上</p>
<p>障害のある人が、病院内や施設内にとどまらず、地域社会のなかで役割や機会を得て暮らしやすくなることに寄与できていると思う。また、市内の多様性やその文化形成の定着に一定の成果を感じている。ただ、共助・公助の発展とともに、互助・自助の衰退を招いている懸念も抱いているため、今後は、本法人を必要としない（廃業できる）地域づくりを行いながら、そのために本法人が必要とされ取り組むべきことを模索していきたい。</p>
<p>行政、社協、地域諸団体等との連携による買い物支援の取り組み、高齢者見守り、消費者被害防止、防災・減災、被災地支援、食品ロス削減・フードドライブの取り組みなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のコミュニティ活動は他地域にも広がりを見せ、来場者（イベントetc）が増加している。 ・ロコミの影響が大きく占めているのも当地域の特徴である。
<p>兵庫県朝来市が擁する竹田城に纏わる太刀の伝説を発掘し、その太刀の復元を全国の多くの支援者のご支援により実現。Yahooのトップニュースを飾るなど、一過性の竹田城ブームを喜ばない地元の皆様が求められる竹田城に秘められた物語の認知度向上に貢献できたものと考えている。姫路で行う意図的にレベルを抑え大会にエントリーしないヨーロッパ型のバレーボール教室では、校区外からの応募も多く純粋に体を動かすことを楽しみたい子供や親御様のニーズに応えられているものと考えている。</p>
<p>ハンザキ保護やその生育環境の保全について啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民提案型パイロット協働事業（公立幼稚園と協働による預かり保育事業）でも提案し試行運営を一年行い、他の園向けに反対をする園と父兄向けに市役所と協働で説明会を開催○「預かり保育のご案内」のたたき台を作成○時間延長を試行で開催○3歳児受け入れを試行で開催 などにより公立幼稚園でなかなか調整する事が難しかった事業を行い展開していくチャンスに繋がった（来年度からは28園全園で開催予定。（当法人は十分な功績を残すことができたと考えている）
<p>長く続けることで、地域の方々に名前を覚えていただく機会を増やし、名前を覚えていただくことで、困ったときにどこに相談すればよいのか、思いつくきっかけにてもらっている。就労支援先の当事者の方と同じ職場の方に障害のある方でも働けるということを身近に見てもらえることができている。</p>
<p>各地域で取り組まれている小地域福祉活動を継続的に支援し、市内100か所を超えるつどう場が住民主体で運営されている。また、それらの活動を通じて地域の緩やかな見守り活動にもつながっている。その他、各種相談活動を通して、直接的に支援を行うとともに地域の新たなニーズを把握し、それらに応じた活動の展開にも取り組んでいる。さらに、権利擁護デスクの設置や当事者の組織化活動を行っており、新たな課題の掘り起こしにもつながっている。</p>

③但馬地域 事前アンケート 自由記述全データ

Q1 「つながりあう社会」の実現のために、あなたが今回フォーラムで討論する必要があると思われる内容
地域づくり、NPO法人活動、ボランティアなど特に「無償の愛」という考えが根強く「ボランティア」は無料が前提という誤った考えがあり、実費の請求さえ難しい場合がある。
地域づくりにおいて、自治体職員や時間のある地区の人間が無償でおこなうという考え方があり、負担が集中する。相応の対価の検討が必要
「つながりあう社会」づくりにおいて「株式会社」は資金援助のみが必要とされ、排除されがちに感じる。
個人にしる、組織にせよ、「強み」と「弱み」を出し合うことでお互いを補強することができ、結果、つながり合えると考えています。まずそれぞれの強み・弱みを話すような場が欲しいです。
NPOや地域自治協議会が新たな公の存在としての役割を担ってきているのか?
非営利組織の活動は公益的な活動になるのか?
自治体や他団体との連携
ごみ出し難民及び買い物難民をサポートするためのサービス事業の展開が必要と考えております。現在、当自治協では民生委員等の協力が得られるか協議を進めています。
障害のある方々の施設でもあり、いろんな方々に知ってもらう機会が少なく、地域の方々やいろんな方々に広く知って頂き、一緒に活動していくには、どうしたらよいかアドバイスが頂きたいです。縦割りの福祉サービスを変えていくにはどうしたら良いのか教えて頂きたい。地域の会社・企業の方々に理解して頂き、障害のある人の働く場所を提供してもらいたい。
人材の確保と育成
本市では、行政評価の取組みとしてより成果を重視した「戦略的政策評価」の手法を平成26年度から推進している。行動計画の策定から目的に関心や利害のある市民等と一緒に取り組んでいる。計画は策定できるものの、実行に移す際、協働先の金銭的負担や人材が不足し、ほとんどの場合中途半端に終わってしまう。行政以外の支援体制や実行体制の仕組みづくりに柔軟に対応する必要がある。
近い想い(理念)を持った団体が、つながるどころかライバルになる場合もある現状。
国籍に関係なく、在住外国人の方々も同じ地域に住む住民の一員として、お互いに助け合って暮らしていけるよう、多文化が共生できるまちづくりの啓発
すでにニーズがある事はビジネスで行える。行政より民間が行う方が良い事は委託される。大切なのに、気づかれてない事に着目し、行動している団体や行動を、どこがどう支援し続けるのか。すでに価値の低い、行政の事業を、どうやめるのか、もしくは改革させるのか。
NPO法人や地域団体が今以上に協働して活動を行なっていくにあたり、人材の育成をどのようにおこなっていくべきか
団体のニーズとシーズと結ぶ場づくり
課題 展覧会で実働できるメンバーが少ない
行事を検討するときに、何に重きを置いて(高齢者なのか、地域全体なのか等)協議しているか。
住宅や働く場所が増えて、若者や新しい居住者の定着を目指す地域づくり
住んでいる人が生きがいを感じる地域づくり
呼びかけの世話人の確保
ボランティアの作業員の確保
行政としてのかかわり
人的な支援体制
活動する予算の確保
様々な意見や取り組みについて話し合える共通のプラットフォームの常設が必要
持続可能な活動とするための財政的な裏付けの確保について(助成金等の情報共有)
行政との関係性を明確化する必要
情報発信のやりかた(関係者向け、知らない人向け)

Q2 あなたの団体が「つながりあう社会」の実現のために最も力を入れていることをお教えてください。

地域版ポータルサイト「あさぶら」において、情報の集約・共有および、イベントとそれを求める人のつなぎ役など
若者人材育成事業において、卒業後に地域を離れる割合が高い高校生と地域をつなぐ活動。「あさご高校社会活動部」事業の展開
空き家の活用、対策という観点で他の団体にはできない方法で地域課題に関わっています。
少子高齢化で地域力が衰退していく中で、持続可能な地域づくりのために地域自治協議会の活動が小さな役割として共助の組織となりうる活動に思っている。
青少年事業
公開討論会
安全・安心なまちづくりの推進を図るため、防犯・防災等の事業に取り組んでいます。青色回転灯装着車によるパトロールを夏と冬に実施。防災委員と区長による防災会議の開催。
障害のある人も、ない人も、どなたでも安心・安全に過ごせる居場所として、一人ひとりの思いを大切に、活動しています。8年近く古民家で活動してきましたが、社協さんの声掛けや行政さんの協力によりまして、この5月から、日高健康福祉センター内へ移転をし、活動しています。行政・社協さん・専門職など、いろんな方々と連携を取りながら、共生型地域作りを進めています。
地域社会との連携
市民や企業、団体等との協働のまちづくり
常に他団体や活動に関心を持ち続け、事業を行なう場合に声かけする相手を意識している。
生活するための日本語、文化、生活習慣などを学ぶ日本語教室の実施
外国にルーツを持つ子どもとその家族の支援
季節のイベント、お互いの国の文化、言葉、料理などを知るための国際交流イベントを開催し、地域のひとと交流する場の提供
誰もが楽しく集い、困ったときにはいつでも相談できる居場所の提供
常に他団体や活動に関心を持ち続け、事業を行なう場合に声かけする相手を意識している。
兵庫県では、県民の多様なニーズに的確に対応しつつ、より一層県民生活を重視した県行政を推進していくために、県民の参画と協働の多様な機会の確保を図り、県民とのパートナーシップに基づく県行政を推進していく必要があるため、平成14年に「県民の参画と協働の推進に関する条例」を制定している。その条例に基づき、県民と県民のパートナーシップ及び県民と県行政とのパートナーシップを推進している。
もれなく展覧会に出品できるよう周知すること、作品として鑑賞できる環境をつくること、多くの市民に展覧会の周知を行うこと
地区内の施設が区民の拠り所となるように、ボランティアさんの協力で月2回ふれあい喫茶の開催や、地区民の交流を図る「ふれあいの旅」を実施。
誰もが協力的で交流ができる地域づくり
法人上山高原エコミュージアム
全ての事業に市民が参加できる機会を設けている
すべての事業でアンケートを実施し参加者の意見を事後の事業展開に生かす工夫
情報発信のやり方

Q3-1 貴団体の活動について

今取り組んでいること
市・商工会と3者連携による地域版ポータルサイトの運営、地域の情報集約・共有・発信
デザイン業務において地域の魅力発信の支援
若者人材育成において、高校生と地域をつなぎ、地域資源を生かした学びの提供
自治体・株式会社と連携した地域の製品のネット販売・ふるさと納税の支援
朝来市における移住定住支援、空き家バンク業務の受託、空き家の片付け、空き家の管理代行、地域おこし協力隊の支援
市からの交付金を活用し、福祉、防犯、地域活性化、安心安全、学び等の活動を行うとともに、自治会等のコミュニティ活動などを支援
和づくり・出会い部会活動
安全・安心・定住部会活動
自然・生活環境部会活動
青少年育成事業、まちづくり事業
広報部会活動
高齢者交流会の開催
ペットボトルツリー制作・点灯式
青少年育成事業、まちづくり事業
移住促進・移住者支援事業
活動当初は、地域活動支援センターとして、アットホームをテーマに穏やかなゆっくりとして、どなたでも利用して頂く居場所作りをしておりましたが、利用者さんのステップアップが出来る居場所として、昨年9月より、就労継続支援B型事業所を開所し、2事業で活動しております。20代から70代までの年齢幅広い方々に利用して頂いております。
指定管理による施設の運営とそこを拠点とした調査活動や普及啓発活動。具体的には、豊岡市内の生物のモニタリング調査、ビオトープの管理・普及啓発、田んぼの学校、出張田んぼの学校、その他講師活動など。
豊岡市基本構想の主要手段4「多様性を受け入れ、支え合うリベラルな気風がまちに満ちている」を実現するための戦略を策定し、先導的に女性をターゲットとし、家庭や地域における女性の居場所と出番を増やす取組みを進めている。女性が働きたい職場（働きがいがある、働きやすい職場）への変革を市内企業に促すことにより、女性がいきいきと働く企業が増える取組みを進めている。また、市役所内における改革も取り組んでいる。
持続可能で、本当に幸せなライフスタイルや、価値観を、考えてみたり、気づきとなる場づくり。
日本語教室の実施
地域住民との交流事業（あいうえお茶会）
外国にルーツを持つ子どもとその家族の支援
生活相談受付及び対応
多文化共生セミナーの開催
あいうえおの活動発表、寄稿など
但馬地域の日本語教室のネットワークづくり
翻訳資料の作成
子育てネット（就学前説明会など）
日本語学習支援ボランティア養成講座の実施
行政や教育現場との連携・協力
若者に建築技術を学ばせて。伝統技術の魅力を地域に発信している。
条例に基づき、県民と県民のパートナーシップによる自発的で自律的な意思による「地域づくり活動」、県民と県行政とのパートナーシップによる「県行政への参画と協働」の推進に向け、事業を行なっている。
具体的な事業として「夢但馬応援事業」を行なっている。この事業では、地域で活動する人材の育成や世代間交流、他の団体との連携をはかるなど、地域の活性化につながる事業を支援している。
精神および知的障害者が作品を発表できる場を提供するために「がっせえアート展」を9年前から開催している。
自治振興部会（地域内各区施設の補助対応）
健康福祉体育文化部会（地区民の集いづくり（ふれあい喫茶）
生涯学習（ことぶき大学、お菓子づくり教室）グランドゴルフクラブ）
地域づくり（各保存会の継承、子供会、いずみ会等の活動）
日々の暮らしが快適な地域づくり
朝市の開設
ふれあい喫茶の開設
地域安全マップの作製
自然再生活動（草刈り、灌木の伐採）
自然を活用した植物観察等自然の体験活動
農産物の特産品づくり活動
自然観察ガイド
すべての事業に市民が参加できる取組み
市が策定した文化芸術振興計画の実施者として計画の具体化と実行
自然体験を通じた地域振興
子どもの健全育成
環境整備

今後取り組みたいこと
地域産品を中心に、市内旅行業者と連携した着地型観光プランの販売支援、観光体験の販売支援など、地域資源の商品化
地域版ポータルサイトと地域拠点との連動。地域内へフリースペースを設置し、地域住民への貸出、イベント・市事業の開催など、地域のハブとなる場所作り。
移住希望者と地域の仕事のマッチング
イベント等の活動が多いので、少子高齢化、人口減などの地域課題を解決するための共助活動等を発展させていきたい。
青少年育成事業、まちづくり事業
ごみ出しサービス事業
買い物サポート事業
同一の事業所で、介護保険と障害福祉のサービスを提供する取り組みをやっていききたい。例えば、富山型サービスの様に、高齢者・障害者・子どもさんなど多様な利用者に対して、同一の事業所で、サービス提供が出来る共生型サービス事業に取り組みたい。利用者の工賃向上のため、菓子製造業も取り組みたい。
指定管理している施設を、より魅力あるものにしていく。
地域コミュニティや各集落等、その地域に合った活動にオブザーバーとして参加し、地域の自然を生かした地域づくりを進める。
豊岡の自然の基本的なデータを集める。
障がいのある人や外国人住民が就業を含めた社会活動へ参画し、その力がまちの原動力になること。
団体名の通りだが、持続可能な社会や地域づくりに、もっと貢献したい。
多文化共生のまちづくりに係る周知活動
子どもの日本語学習及び教科学習支援体制の構築
地域の技術や、歴史、職人のデータ化、保存。
今よりももっと沢山の団体にこの「夢但馬応援事業」を知って頂き、活用して頂きたい。そのために、さらにPRを進めて行きたい。
3月に「たじま地域づくり活動交流フェスタ」というワークショップを行なっているが、その行事にもっと沢山の団体に参加頂きたい。
団体間の横のつながりを強化して、協働による取り組みを推進し、団体間の連携を促進して行きたい。
作品を収集・保存すること
高齢者と園児との合同事業
他地域との交流
高齢者の移動手段の確保
空家活用
自然再生活動の継続。
ススキ草原の拡大、自然再生についてのモニタリング活動の継続。
多様な市民が参加できる社会包摂としての取り組みを強化したい
現状の拡大
障壁になっていること
事業計画
人的資源の不足により、地域の企業の業務内容や求人事情をヒアリングできていない。
人材の高齢化が進み、実質的な行動ができる人が少なくなっている。
知名度、予算、会員数
活動リーダーの不足
自己資金の確保
地域住民の理解が不足
行政との話し合いの中で、何をやるのにも、縦割りで決められてしまうので、本人の意思が通らなかつたり、現場の声も聴いてくれない事が多くある。今後取り組みようとしている共生型サービスも、今までの制度の中では、壁になることが多くて、難しい。
各地域の取り組みが個性的で温度差がある。それは利点でもあり、困難さでもある。NPOの側の人材不足。
役所内においてもどこが責任を持って取り組むのか。範囲が広すぎて、全体をマネジメントできない。
事務員が雇用できず、常に役員に負担が集中している。
支援者不足
運営資金の確保
事務員が雇用できず、常に役員に負担が集中している。
作品を保存する場所、保管方法に関する知識、人の確保と予算がない
ボランティアの確保
コンビニエンスストアなどの店舗の誘致
空家バンクの充実と活用
自治協未加入地区の問題解決
・各種活動の資金繰り「作業資金の:事業確保」
・会員が広がらない
・ピーアールの不足
モチベーション確保のための待遇改善
行政との連携
人材の確保と育成
能力のある人の人手不足

Q3-2-① つながりづくりについて (NPO)

今取り組んでいること

生野夏祭り実行委員会とも連携し、夏のお盆の祭りを実施

日高町内にある、NPO団体と定期的に、集まり協力し合いながら、日高で活動や行事を行う取り組みを話し合っている

コウノトリ湿地ネットなどと連携

他団体の事業に参加協力している。

他NPO団体の視察

他NPO団体からのセミナー参加及び活動発表

他NPO団体のセミナー参加及び活動発表

情報交換

他団体の事業に参加協力している。

「夢但馬応援事業」に応募したNPO法人に対し支援している。

NPO法人を含め、但馬地域の障害者支援施設に作品制作、発表を働きかけている。

会員の確保によって作業している。

中間支援組織としてセミナーやネットワーク会議の開催

近隣地域内で話し合う場が設けられている

今後取り組みたいこと

11月には、日高町内の団体とのコラボでイベントを開催致します。その後も続けていく予定です。

現状の事業を引き続き。

同じような活動をしている団体の視察

情報交換

引き続き、左記同様。

3月に「たじま地域づくり活動交流フェスタ」というワークショップを行なっているが、その行事にもっと沢山の団体に参加頂きたい。

各施設の壁を越えた作品保存

会員の確保

プラットフォームとして気軽に話し合いができる場の設定

連携強化

障壁になっていること

人材の確保

小規模からの開催ですので、今後には、協力してもらえる方々へどの様に広めていくか。

予算（収入）がない事がほとんど。

時間的・金銭的余裕がない

支援者に芸術活動に関する知識がない

都市部から遠距離である。

NPO職員のスキルアップ

能力のある人の人手不足

Q3-2-② つながりづくりについて (NPO以外の非営利セクター)

今取り組んでいること
市からの委託事業という形で、地元高校や企業と連携した観光人材育成事業
地域資源を活用した探求活動、商品開発など
高校での観光教育の支援
生野高校の全県区に伴い市外の学生が下宿しているが、高校と連携し、その学生の後見的な役割を担っている。
青少年育成事業
社協・兵庫県社会福祉事業団・日本財団と月に一度会議を開き、情報共有・情報提供を行っている
地元の高等学校の生徒と調査活動、大学院生との連携した活動など
女性が働きたい職場づくりに向けて、市内企業と連携して取り組んでいる。
他団体の事業に参加協力している。
チラシなどの設置依頼
会場利用
他団体の事業に参加協力している。
「夢但馬応援事業」に応募した一般社団、学校等に対し支援している。
一般社団法人の障害者支援施設に作品提供を呼びかけている。イベント時に各障害者施設の出店・販売を依頼している
校区体育大会 文化祭
地域の観光協会等との連携
学校と自然体験の関係性あり
今後取り組みたいこと
卒業後に地域を離れてしまう「高校生」がいるうちでできる、本当の意味での地域づくりへの参画。
連携強化、地域創生
今後は、会議を存続し、豊岡市にも協力して頂き、日高町の福祉の活動を広げたい。
障がいのある人や外国人住民が就業を含めた社会活動へ参画を促す。
現状の事業を引き続き。
外国にルーツを持つ子どもに関する教育委員会との情報共有（受入、日本語学習、教科支援等）
3月に「たじま地域づくり活動交流フェスタ」というワークショップを行なっているが、その行事にもっと沢山の団体に参加頂きたい。
学校にボランティア参加の呼びかけを行いたい
小学校との合同で体育祭の開催
地域の観光協会、他団体との連携強化
丁寧な対応
障壁になっていること
活動に必要な資金の、税金や補助金に頼らない収益の安定的な確保。
専門的な知識を、行政の方に協力して頂くのにスムーズに行かない。行政内でも、双方の意見や決まりが難しい様で、中々、前に進まない。
課題となっている取組みを一斉に取り組むだけの資金や人的資源がないため、優先順位を付して取り組む必要がある。
支援者不足
予算（収入）がない事がほとんど。
事務局が一人だけなので、時間が取れない
ボランティアの確保
活動の理解不足
能力のある人の人手不足

Q3-2-③ つながりづくりについて（地域団体）

今取り組んでいること
地域自治協議会・観光協会などから情報提供を受け、地域版ポータルサイトでの情報発信など。
自治会に空き家の情報をヒアリングすることがある
地域自治協議会の運営委員会には各区長も理事として入っており、地域自治協議会の活動団体でもある。
和田山地区区長会の全面的な支援を受け、継続的な活動が出来ている
市内の自治協と情報交換を行っている。
社協の地域福祉推進委員をさせてもらっていて2か月に1度会議に出て情報交換させてもらっています。
地域コミュニティ、各集落の農業関連団体、子ども育成会等と連携した取り組み。
地域防災やコミュニティの活性化、地域福祉活動など。
他団体の事業に参加協力している。
地域交流イベントへの参加
イベントの案内
他団体の事業に参加協力している。
県民の参画と協働の考え方を広く呼びかけ県民運動を提唱する「こころ豊かな美しい但馬推進会議」に県民局も構成員となり、他の地域団体等の構成員とともに活動している。
イベントチラシの配布、掲示を依頼している
自治協議会の各部会が計画した行事（資源回収・文化祭・ふれあい喫茶・ふれあいの旅・味噌造り・高齢者の集い・ことぶき大学・老人クラブの活性化）等
平成24年に策定した「伊佐校区地域づくり計画」
地元町との連携している。
観光協会との連携
今後取り組みたいこと
継続的な情報発信。
各種団体との連携を強化し、少ない人材を有効に活用できるような体制づくりが求められる。
地域防災、地域創生
地域課題の掘り起こし
地域でどなでも、安心安全に暮らしていける地域作り・居場所作りを進めている。
地域コミュニティと連携した取り組みを促進する。
現状の事業を引き続き。
自治会との情報共有
やさしい日本語の周知と活用
3月に「たじま地域づくり活動交流フェスタ」というワークショップを行なっているが、その行事にもっと沢山の団体に参加頂きたい。
商店街を利用したアートフェスティバルは面白いかも
ボランティアさんの協力が得られるならミニディサービス
農業が継続して行える地域づくり
連携の強化していく。
丁寧な対応
障壁になっていること
住民アンケートを実施したい
各地域・各地区の特性、高齢化・遠隔地で交通が不便。リーダー的存在になる人が居ない。
地域のリーダー層の、自然やそれを取り巻く社会についての基本的認識のばらつきが大きい。
把握していない
予算（収入）がない事がほとんど。
在住外国人との共生に対する認知が低いと感じられる。
事務局に仕事が集中する
農会組織と連携して「伊佐集落営農体制」づくり
予算的な問題？
能力のある人の人手不足

Q3-2-④ つながりづくりについて（行政）

現状の取り込み
<ul style="list-style-type: none"> ・自治体・商工会との3者連携による地域版ポータルサイトの運営。 情報提供・企画運営会議など ・自治体関連の事業のデザイン業務による情報発信の支援。
<p>朝来市空き家バンクを含む移住定住支援業務の一部受託</p> <p>市からの包括交付金の中で協働事業項目があり、花づくり、環境整備活動などに取り組んでいる。また、30年度からは生野メインホールの管理を受託している。</p>
<p>青少年育成事業、地域創生</p> <p>豊岡市（コウノトリ共生課、環境審議会他） 但馬県民局（コウノトリ野生復帰協議会他） 国土交通省（円山川自然再生関連）など</p>
<p>結局なし。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊岡市主催の会議への参加 ・多文化共生に関する情報共有 ・リビングガイド多言語化における翻訳協力
<p>結局なし</p> <p>地域活動支援センターを開設中。今年のアート展は豊岡市と共催する。</p>
<p>町、県との連携している。</p>
<p>補助／委託事業などあり</p>
今後取り組みたいこと
<p>自治体と連携し、国の流れに合わせた場面に合わせた情報発信、その他必要なこと</p>
<p>空き家バンクの登録物件の流動化を狙って、金融機関や不動産屋、建築事業者と連携していくことを提案して実践すること</p>
<p>市の業務で受託できるものは受託して自主財源の確保していきたい。</p>
<p>青少年育成事業、地域創生、地域防災</p> <p>豊岡市の環境教育、環境調査、湿地の管理等を受託業務化していく。具体的な業務で日常的にかかわっていく。</p>
<p>限界を感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政との連携を深める ・教育委員会との情報共有を行い、子どもの日本語学習支援を充実 ・外国人の生活相談受付・対応の情報共有
<p>限界を感じる。</p>
<p>未定</p>
<p>国、県、町等との連携していく。</p>
<p>丁寧な対応</p>
障壁になっていること
<p>市職員の人事異動による関係性の希薄化。経験値の積み上げができず、立ち上げ当初の理念・計画の共有も難しく、長期的な計画と事業費の捻出が困難。</p>
<p>人的資源の不足</p>
<p>人材の確保</p>
<p>行政の内部に自然に関する専門家がないことによる限界。</p>
<p>行政は、目先の対処が中心の組織が多い。伴い、啓蒙活動には費用が出にくい。</p>
<p>豊岡市としての多文化共生施策が確立されていない</p>
<p>目先の事。対象が「物」にしか費用が出にくい。</p>
<p>どんな連携が可能か、よくわからない</p>
<p>予算の問題？</p>
<p>能力のある人の人手不足</p>

Q3-2-⑤ つながりづくりについて（企業）

今取り組んでいること
地域の特産品ネット通販における協力、ふるさと納税返礼品のPRの協力（取材・撮影・情報発信）など。
地元、不動産屋、建築事業者との空き家に関する情報共有
特にない。
青少年育成事業、人材育成事業
地元の道の駅さんの協力を得て仕事が出来ている。
女性が働きたい職場づくりに向けて、市内企業と連携して取り組んでいる。
行政は、目先の対処が中心の組織が多い。伴い、啓蒙活動には費用が出にくい。
<ul style="list-style-type: none"> ・生活相談・対応（通訳調整など） ・外国語（ベトナム語）サロンの講師調整 ・イベントの案内 ・会報の郵送 ・日本語教室の実施
時には、企業から費用支援を頂く。
10以上の企業、法人にスポンサーになってもらっている
町内の各自治協事務員の意見交換と情報収集を持ち回りで毎月開催
企業の連携は今後の課題
今後取り組みたいこと
旅行者と連携した、着地型観光のプラン販売
金融機関、地元企業との連携
特にない。
青少年育成事業、人材育成事業
PR活動、新しい商品開発・販売の機会の拡大を進めている。
障がいのある人や外国人住民が就業を含めた社会活動へ参画を促す。
CSRに関わりたいと考えている。
<ul style="list-style-type: none"> ・生活相談・対応（通訳調整など） ・外国語（ベトナム語）サロンの講師調整 ・イベントの案内 ・会報の郵送 ・日本語教室の実施
製品や広報、企業のイメージアップにつながる作品を利用を進める
企業へのピーアール
障壁になっていること
NPOとしての立場があり、株式会社との協力の線引きに気をつかう場面がある。
連携を提案するためのネットワーク不足
PR活動先が見つからない。何かを始めると人材がいる。人件費がかかる。新しい商品開発のアイデアが乏しい。
課題となっている取組みを一斉に取り組むだけの資金や人的資源がないため、優先順位を付して取り組む必要がある。
価値を意識、理解する企業はまだ少ない。
交流不足
フリーに動ける事務局体制がない
事務的な課題

Q3-2-⑥ つながりづくりについて（議会・政治）

今取り組んでいること

特定の思想など偏ったイメージを避けるため、密接な関わりはあえて避けている。

該当なし

議会モニター制度に地域自治協議会からモニターを推薦した。

議会モニター制度

個人レベルで交流有り。

・セミナーの周知及び参加依頼

・活動紹介

接点があっても、具体的には何も起きない。

年一度のタウンミーティングと議会報告会を開催

傍聴してない。意見貢献してない。

今後取り組みたいこと

議会モニター制度

多文化共生の理解を求める

意見貢献は必要である。

障壁になっていること

双方、時間的余裕がない

特にない。

Q3-2-⑦ つながりづくりについて（中間支援NPO、ひょうごボランティアプラザ）

今取り組んでいること

PCで情報を見たり、助成金の情報を見て、助成金を受けたりしています。

地域の課題や社会的な課題を解決するための事業に取り組んでいただいている。

補助の申請もれ、プレゼンにも行ったが残念な反応。

- ・会報発行
- ・セミナーや交流会などの案内
- ・活動紹介及び賛助依頼

ひょうごボランティアプラザの事業について、募集等のチラシを配布するなどの支援を行なっている。

していない。

ある

今後取り組みたいこと

先進的な取り組み事例を紹介してほしい。

情報交換や協働事業をしてみたい。

地域コミュニティの自立

地域ビジョンにある様な、未来づくり。

- ・賛助会員（個人・法人）を増やす
- ・賛助会員（個人・法人）の意見交換会の開催

地域ビジョンにある様な、未来づくり。

検討したい。

丁寧な対応

障壁になっていること

情報交換・協働事業の方法がわからない。

現在は、地域コミュニティの自立までの助走期間である。

起きている事（病気）にウエイトあり。起きなくする（予防）に対し応援が弱い印象。

時間的余裕がない

神戸は遠く、生の声や地域の状況が伝わりにくいと思う。発信窓口程度でなく、言葉通り、あてにされる、期待される中間支援を目指して欲しい。

どのように連携できるかイメージできない

能力のある人の人手不足

3-3 支援者・寄付者について

今取り組んでいること
地域版ポータルサイトへの「掲載」という形で支援者を増やそうとしている
対内紙、例会・事業参加
・朝来市から交付金をいただいている。 ・自主財源として各区から運営負担金をいただいている。
兵庫県内の団体に助成金を預いています。とても助かっています。とても良くして頂いて、何度と施設見学や評価・いろんな情報を頂いております。
正会員、賛助会員ともに年会費は1000円なので、財政支援的な意味はほとんどない。獲得する努力をしていない。
今はない
・会報発行 ・セミナーや交流会などの案内 ・活動紹介及び賛助依頼
今は無し。
知事の委嘱を受けた「夢テーブル委員」で構成されている夢テーブル委員会が県の施策やビジョンを具体的な行動に移している。今年には8つのグループに分かれ、但馬地域のビジョンの実現に取り組んでいる。県の事業にも協力している。
会員になってもらい、会費による経済的支援を受けている。年度終了後、報告書及び図録を送っている。
一世帯1,000円の自己財源確保
検討したい。
具体的な働きかけが行えていない
行っているつもりSNS、直メールなどでの評価
今後取り組みたいこと
掲載したいと思える地域版ポータルサイトのさらなる成長
対内紙、例会・事業参加
自主財源の確保
自動車の助成金を頑張って申請をしていく。
必要が生じたときに、補助金等を獲得する。将来人件費が出るような寄付が獲得できればベスト。
目指してはいる
・賛助会員（個人・法人）を増やす ・賛助会員（個人・法人）の意見交換会の開催
目指してはいる。
支援者との交流
継続してピーアールする。
市民にNPOの存在とその意義を分かってもらえる取組みが必要
丁寧な対応
障壁になっていること
市内企業など、日々の業務のルーティンに余裕がない場合が多い。現在であれば、ふるさと納税などが方法ではあるが、NPOといえどイチ法人に支援はできないと自治体より回答があった。
地域住民の当自治協に対する認知度が低い
資金が少ないので苦労している。
調査活動などの活動内容が、支援をもらう活動になりにくい。
規模も小さく事務も不在。活動も地味になっている。
時間的余裕がない
規模も小さく事務も不在。活動も地味になっている。
どのように交流を行うかアイデアがない
特にない
自主事業の展開で手一杯の状態である。事業全体の効率化と省力化を図ることや、職員のスキルアップを図る必要がある。
能力のある人の人手不足

Q3-4 組織運営について

今取り組んでいること

会計などの事務作業の効率化

地域自治協議会が設立して10年近くなり、一定の活動は続いているが、マンネリ化の傾向がみられ、部会の再構築が求められている。

会員拡大、定款精査、各種会議

・和田山地区まちづくり計画及び和田山地区地域自治協議会規約に基づいて活動している。
 ・毎年5月に総会を開催し、前年度活動報告・決算報告及び新年度活動方針案・予算案の承認を得ている。

NPO法人を基盤に、新しい事業の取り組みを行っている。事業内容、活動内容など変更があれば、定款を新しくしたり、事業報告・決算報告もできている。

ボランティアだけでやっていた組織から指定管理施設を利用した活動へ変わったことによる変化。指定管理により活動拠点の確保、有償職員とボランティア人材との協働的運営。

参加者に差がありすぎたので、テーマグループ化。

定款に定めた内容で進捗している

県の支援事業を、わずかながら、活用させて頂いている。NPO化がきっかけで、団体らしい組織となれた。

法令を遵守し、報告、決算等も間違いなく行っている

・規約の制定
 ・監事による定期監査
 ・全体会（総会）による会計報告決算報告
 ・三役会、役員会の定期開催

有効な手段である。定款に沿っての活動であるが、活動資金が不足。監査を受け、予算、決算は総会に報告している。毎月の理事会で、活動の点検、検討などを行っている。

・NPOにしたことで行政との関係性が有効に機能した部分があった。（協働作業としての事業化が図れた）
 ・指定管理者として行政施策の具体化を打ち出すことができた。

有効と考える

今後取り組みたいこと

人材の確保

会員拡大、定款精査、各種会議

まちづくり計画の見直しを行いたい。

新しい働き方改革を考えて行きたい。

若い人材を育てる場にしたい

プロジェクトベースのグループ化。

・組織の確立
 ・社員間で活動内容のコンセンサスを取る

事務局体制の充実

職員服務規程の改正

資金の確保が大事。運営資金、活動資金の援助が必要。自己資金の確保、会費の拡大は美津かしい。活動資金、企業の支援金を模索している。

行政と目標を共有し、協働作業をより強力に進めたい

障壁になっていること

他NPOの視察などをおこなうが、NPOなどは特に一つのテーマで設立される場合が多く、多面的な展開が難しいことが多い。そのため、事業に行き詰まる場合が見られる。また、その多くが資金繰りに課題があり、長時間の残業なども当たり前という団体も多いと感じる。

人材の確保

会員減少、知名度

住民アンケートを実施したい。

働き手と事業者側の違和感。

指定管理費以外に人件費の財源が今のところ確保できていない。

・ニーズの多さ
 ・業務の多さ
 ・支援者不足

小さい組織にとっては、むしろ足かせ（事務・ルール）と感じる事もある。

人を雇う予算がない

復元活動、再生活動について、継続作業ができる資金の拡大を望む

Q3-5 地域や社会に与えられたと考えられる具体的な影響や成果など

<p>まだまだ成長途中ではあるが、地域版ポータルサイトでは一定数の閲覧数を記録するようになり、また若者観光人材育成事業では5年目となり、高校生関連コンテストの上位入賞や、地元旅行社への地元就職の実績もあった。</p> <p>ただし、どうしても地方においては市役所に資金、情報が集まり、かつ職員がプレーヤーとして動くことが多く地域における比重が高い。そのため連携が不可欠な場面が多いが、流行りの補助金、流行りの事業への展開が激しく、また異動もあり連携には課題が多い。</p> <p>小さな役場的な組織として持続可能な取り組みができるようにしていきたい。現在地域内で行われているイベント、行事等について地域内で共有し、効率的、効果的な事業運営ができるような取り組みができればと考える。</p>
<p>地域のリーダー育成、青少年の帰属意識の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政が各地区に移譲した活動は概ね達成できている。しかし、自治協独自の活動を充実しなければならない。 ・区長会の事務局を兼務しているので協力が得やすい。また、区長同士の情報交換の場となっている。
<p>障害者のある方ない方関係なく、いろんな方々に利用して頂いています。特別支援学校卒業後の方々や中途障害になられた方々にも利用して頂いていますし、高齢者の居場所としても提供しています。特別支援学校卒業後の10代から70代まで、一緒に過ごせる居場所作りが出来て、高齢者の方の生活スキルアップが実現できています。必要な時に必要な支援が出来る様に、年齢や障害の有無に関わらず、お互い助け合える地域作りが出来る様に、これからも取り組んでいきます。</p>
<p>田んぼの学校は20年近く継続しており、出張田んぼの学校として地域にも広がっている。子どもたちが自然の中で遊ぶことの大切さ・価値を、大人が再発見するきっかけにはなったのではないかと。また、様々な観察会を通して、身近な自然を見る目を市民レベルで広めることができた。長年実施してきた豊岡市での生物調査による蓄積は、豊岡市の様々な自然環境に関わる政策（環境審議会、希少生物・外来生物調査、シカ対策事業、公園の整備など）を実施する上において、一定の役割をはたしてきた。</p>
<p>行政において、従来から計画づくりにおいて、利害関係者と一緒に作業を行い、その計画の実行に当たっては、実行体制を整備し役割分担のもと推進している。その結果、ある一定程度の成果や効果は得られるものの、抜本的な解決にはつなげていない。また、PDCA等評価や検証を行って見直していく体制や責任がまちな全体として不足している。</p>
<p>大切な住まいフォーラム（空き家を増やさないまちづくり）ほか、セミナーや講座の開催を続ける事で、累計300名以上に、暮らし、生き方を高めるための「気づき」を提供してきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の活動やセミナー等を通じ、行政、教職員、地域の人たちと在住外国人に関する情報を共有することができた。 ・出産、子育て、防災、ごみの分別等に関する内容を「やさしい日本語」や多言語で作成し、また、それらを提供することで、在住外国人の不安を軽減することができた。 ・但馬地域の日本語教室のネットワーク化（たじま多文化共生ネットワーク）に取り組み、日本語教室（6教室）を紹介するマップ（やさしい日本語）を作成したことにより、より多くの人に日本語教室の存在を知ってもらうことができた。
<p>育成も就業も困難とされ全国的に人手不足や、技術の消滅を心配される「左官職人」を10名以上育て、女性含めた4名活動中。</p>
<p>夢但馬応援事業では、毎年約30団体に対し支援を行ない、多彩なイベントや取り組みをおこなっている。イベントの中には、すっかり地域に定着したものや多数の参加者を集めているものもある。今後も人と人をつないでいけるような事業や地域を盛り上げていくような事業をおこなっている団体を支援していく。</p>
<p>展覧会や就業支援などで市民と障害者との接点が増え、市民にとって障害者が身近にいることが当たり前になってきたのではないかと。また、個人やホテルに作品をレンタル、販売し、障害者の能力を知らせることができた。</p>
<p>行事前に事前発信することで、これまで家に閉じこもっていた高齢者の方が、自主的に誘い合って参加したり、施設での催しに関心を持つようになったと感じる。</p>
<p>調理実習棟及び交流室の拡充により、より多くの住民の参加のもと、心身の健康増進や、食を通じた交流をテーマとして、多世代による多彩な活動が行なわれている。ふれあい喫茶、校区体育大会、校区文化祭、土曜朝市など</p>
<p>手つかずの自然をピーアールすることで「つながりあう社会」の成果につながっていると考える。（高原ハイキング、各種の滝トレッキング、親子キャンプ、ススキ草原の高原づくり、茅づくり体験、ブナ林散策体験など）</p>
<p>市民の文化創造活動を支援し、この地に生きる喜びを感じられる事業を展開してきた。特に中・校生を対象とした事業や市民参加事業の展開により市民の自己表現力の高まりが見られ、芸術系の大学を志望する若者や専門学校に入学する高校生が増加している。また、市民劇団に参加する市民が増えたことや、将来、この地でアート系の仕事を希望するUターン希望者も現れている。</p>
<p>参加者の成長を直に感じ、関係者とともに成長できていると考える</p>